

295

特 230  
328

大谷 光蘇 瑞峰 共述

吾<sup>か</sup>同胞<sup>の</sup>訴<sup>ふ</sup>

近代社發行



始



特230  
328



德富蘇峰  
大谷光瑞  
共述

全國民に訴ふ

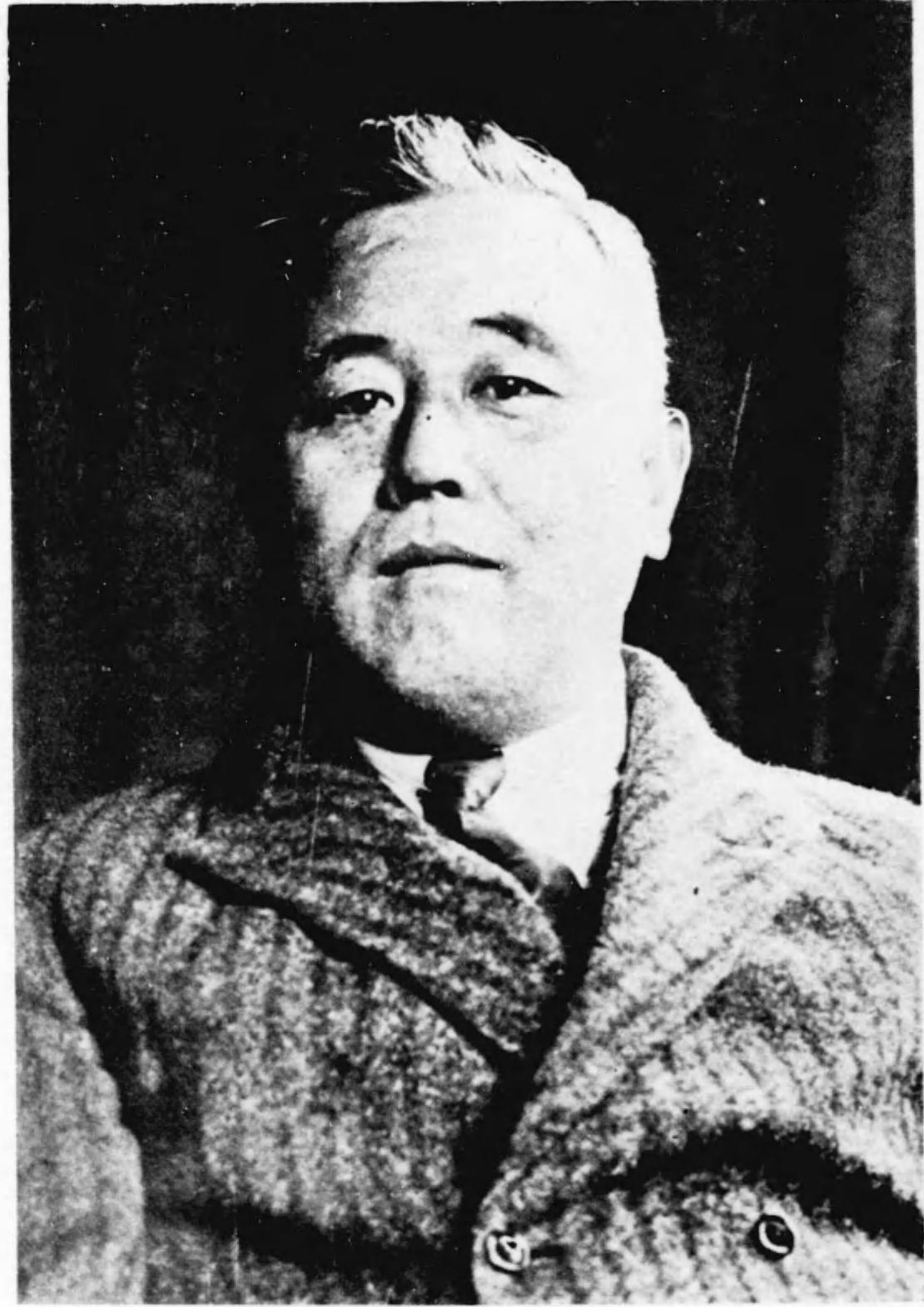
附錄  
本山彦一述  
大谷尊由述





生先峰蘇富徳の近最





生先瑞光谷大の近最

## 序

滿蒙の曠野に咲く一輪の花にも、一莖の葉の上にも我々は嘗つて、我が同胞十萬の生靈が流した血潮と肉彈の跡を追懷して、無限の感慨に絶へざるものがある。

星霜移つて茲に廿有餘年、滿蒙の地は依然として吾が祖國、日本の存立を決定附ける生命線であり、吾が心臓である。之れを護るは、是れ吾が、八千萬同胞の歴史的必然の權利であり義務である。

併るに、北滿の戰雲未だ熄まず、極東の平和爲めに亂れ、吾が同胞は殺害され、吾が生命線は蹂躪され、而して我が權益は無視さる。之れが解決は刻下、急務中の急務である。然り而して此の解決如何に依つてのみ、我が帝國の前途は其の發展の契機と指針とを見出すのだ。

今や、吾が國は世界的に國家的に、空前の危機に直面して居る。此の國難を突破し帝國を安泰せしめるには、唯夫れ八千萬同胞の團結と、一大決心あるのみ。

此際、此の時、吾が國寶的存在たる徳富、大谷の兩先生、吾が社の懇願をいれ、敢然立つて同胞八千萬に呼びかけられる。

一言一句、是れ皆愛國至誠の發露。必らずや全國同胞の肺腑に銘じ、其の決

心と奮起を促すこと、信ずる者である。

茲に兩雄の經綸の一端を書し一冊となし、我が精神運動社のパンフレットとして廣く八千萬同胞に頒つるの光榮を、兩先生に對し深く感謝する次第である。此の小冊子に盛られたものの中には既に發表されたものもある、又未發表のものもある。特に大谷光瑞殿下のは今回猥下と大阪毎日新聞社の特別なる御厚意に依り、其の重大なる部分を今回掲載し得たことは非常に感謝に堪へない次第である。

最後に此の小冊子を出版するに際し、大毎の新妻完氏東京日日の佐藤氏の多大なる御高配を茲に感謝致します。

一九三一、二、一〇

東京・精神運動社にて

中尾 哲雄

目次

◇表題字……………德富蘇峰先生書

◇寫真……………最近の德富蘇峰先生  
並ニ大谷光瑞殿下

滿蒙問題と國民の覺悟……………德富蘇峰

日本と國際聯盟、此の事實を見よ……………一

國際聯盟と國民的一致……………六

國家大試練の時……………九

明治天皇の御遺業を没する勿れ……………二

明治節……………一五

滿洲に對する我が國民の決心……………一八

超黨派的問題として解決せよ……………二一

二つの道……………二三

政黨國乎、日本國乎……………二七

憲政の常道とは何ぞ……………三〇

小事件乎、大事件乎……………三三  
 萬人一心の内閣を樹立せよ……………三六  
 舉國一致内閣……………三九  
 生温き聲明書と熱烈なる民情……………四二  
 後手打外交……………四五  
 日英の關係……………四八  
 龍頭蛇尾に終らしむる勿れ……………五一  
 問題は外にあらざして内にあり……………五四  
 外交官と軍人……………五七  
 十三對一……………六〇  
 貧者の一燈富者の萬燈……………六三  
 詩人の忠憤……………六六  
 協調乎、迎合乎……………六九  
 國難に處して……………大谷光瑞  
 正義の國日本 聯盟の平和破壊、困つた先生。支那は大昔から嘘を吐くのが國風。……………七五

經濟絶交と日本 經濟絶交は望むところ、自給自足の日本、三年たてば世界第一の富國。七九  
 經濟絶交と各國……………八三

日本は支那の沿岸を封鎖する。各國は卅億の損。アメリカは参加せぬ。精神的威壓は子供囁し。

日本は戦争に負けぬ 國際戦争にはならぬ。向ふから賣る喧嘩。……………八八

各國の態度

英國の態度 英國の態度は不埒至極、不信義だ。わが國民は英國に對し決心を要す。……………九二

米國の態度 アメリカの態度は終始一貫、英米の態度に氣をつけよ。……………九四

露西亞の態度 ロシアの希望。日本とは事を構へまい。私の觀察、撤兵問題。……………九六

不可解な軍部の態度……………通用せぬ古證文、關東軍司令部の責任……………一〇〇

道德上の〇〇内閣……………若槻内閣の責任を問ふ。陛下の赤子を〇〇した罪、降魔の劔。……………一〇三

國民の覺悟……………正義の爲めに、國民の慈善心と同情心、慰問の方法。……………一〇八

長江を忘れるな……………長江筋の居留民を慰問せよ、政策の犠牲。……………一一一

眞の支那を知れ……………皮相な國民の支那觀、歴史的に經濟的に研究せよ。……………一二五

今後の支那……………支那はどうなる、自然淘汰、三百年後。……………一二九

正義の前に敵なし……………日本のとるべき道、政府は國民の表れ、國民の覺悟……………一二三

滿蒙問題に關し米國民に訴ふ……………貴族院議員 本山彦一

一、滿蒙は日本の運命に緊密なる關係にあり……………一三八

二、日本、露國の讓渡物を繼承……………一三〇

三、支那の殘忍なる暴狀は續く……………一三三

四、日本鐵道守備隊已むなく行動……………一三四

五、ケロッグ不戰條約の適用不可……………一三六

滿蒙問題に就て米國民に告ぐ……………貴族院議員 大谷尊由

一、ロシアの極東赤化策……………一三九

二、米國の中南米との關係と日本の對滿洲關係……………一四〇

三、米國は滿洲のため一人の生命を犠牲に供したりや……………一四六

四、米國よ、日本を信頼せよ……………一五〇

—(目次終り)—

滿蒙問題と國民の覺悟

德 富 蘇 峰



## 日本と國際聯盟

### 此の事實を見よ

事實は大なる立證者である。我等は國際聯盟の當事者各位が、此の事實に就て、今少しく周到なる注意を拂はんことを要望する。

× × ×  
事實の第一は、日本と支那とが、國際條規の上に於て、將た國際道義の上に於て、從來如何なる態度を取りたる乎を審定せねばならぬ。支那の古き詩、即ち孔子が刪定したる詩經に、「君子屢ば盟ふ、亂是を用て長ず」と云う文句がある。支那人は昔から約束をするが、それを守らないことを、殆んど當然の事としてゐる。此れは第二十世紀の現在ばかりではない、基督紀元以前からの事だ。即ち歴史的に見れば、支那人は、甚だ申しにくき言ではあるが、幾千年來

約束を履行しない常習犯人である。

之に反して日本人には、幾多の缺點はあるが、其の約束を守り、其の信義を踏む一點は、寧ろ莫迦正直と申す程の國民的性格がある。日本の近世開國以來七十餘年、此の一點に就ては、列國皆な我が信義を識認してゐる。固より幕府の末期には、國內に統制力不足して、約束實行の期を誤つたことはあるが、それは餘儀なき事情の致す所、寧ろ不可抗力であつた。

事實の第二は、特に近來に於て、日本が國際正義の上に立脚し、國際協調を基調として、其の一切の政務を施行し、就中東洋の平和を保持する爲めには、自から犠牲者の代價を償うも、毫も顧慮しなかつたことだ。此れは固より世界周知の事實である。

事實の第三は、滿蒙に於ける日本の權益は、日本が其の一國の運命を賭して、而して後獲得したるものにして、世界列國何れも之を諒としてゐないものはない。日本は條約によりて、此の權益を確保せられ、其の投入したる資本と、勞力と、血と骨とによつて、その權益は裏書せられてゐる。然るに支那は、その權益を無視するばかりでなく、故らに之を侵害し、事實を推し極むれば、日本の勢力、及び日本人を、滿蒙の地より放逐し去らんとしてゐる。

事實の第四は、此の問題に對する日本の決心だ。問題は日本人の面目とか、不面目とか云うばかりではない。日本は支那の此の施爲を以て、日本の生命線に向て大なる打撃を加へつゝあるものと認めてゐる。是を以て日本は國力を賭して獲得したる此の權益をば、再び國力を賭して、之を擁護せんと決心してゐる。

る。此れが日本の欺かざる告白である。

事實の第五は、滿洲の現状だ。日本人は決して自己自讚の國民ではない。されど從來馬賊と、貧民と、而して閑却せられたる天然との滿洲をして、今日の如く、殷盛繁昌の新天地を開拓せしめたるものは、専ら日本の資本と日本人との努力である。而して其の恩恵に頼る最も多數の者は、支那人である。同時に日本以外の諸國民も亦た機會均等の待遇を受けてゐる。日本は決して自から其利を私せんとする者ではない、日本は滿蒙に於て、未だ曾て排地、獨占の政策を施行したることは無い。

若し虚心公平に、如上の五個の事實に即して、視察せば、日本が其の生命線上の極點に立て、其の自衛の權能を行使する爲めに出兵したるは、寧ろ當然過

ぎる程の事である。然るに國際聯盟が、支那側の片言を信じて、日本に向て、不當の干涉を試みんとするは、是れ國際聯盟自から國際の常道を破壊し、馬賊や、匪徒の爲めに、世界正義の公權を、濫用するものと云はねばならぬ。

凡そ國際聯盟に對して、尤も忠實に、且つ熱心なるもの、日本以上のものは無い。然るに此の日本を迫害して、強ひて日本をして、國際聯盟の埒外に放逐せんとするが如きは、固より國際聯盟の本旨でないとするも。即今國際聯盟の採りつゝある態度の終點は、恐らくは此に到着せざれば、休まぬであらう。此れは單に日本ばかりの問題でなく、世界の大问题だ。我等は率直なる國際聯盟の親友として、如上の事實及び理由を陳べて、其の猛省を期待する。

### 國際聯盟と國民的一致

國際聯盟をして、其の當然の任務を盡さしめよ。但だ我等は聯盟が我が主張を支持すると否とに、左程心配する必要は無い。

我等は必らずしも國際聯盟を以て我が帝國の運命を支配する至高至上の機關とは考へない。出來得可んば、國際聯盟をして、帝國の立場を諒解せしめ。公平至當の見解を、即今の日支葛藤事件に對して下さしむ可く、努力せしめよ。然も萬々一それが我等の注文通りに爲らぬとて、別段失望もせず、落膽もしな

す。  
我國は最近幾十年、支那に向て、善隣の誼を愛まなればかりでなく、寧ろ餘

りに惜氣もなく、傾け過した。例せば世界列國の中に於て、支那の關稅自主權を率先承認したるは、我が日本帝國ではなかつた乎。乃ち治外法權撤去問題に就ても、尤も合理的の能度もて、之を考慮しつゝあるではない乎。

然るに彼等は何を以て我が好意に酬いたる乎。折角條約上に於て、保障せられたる、滿蒙に於ける我が權益さへも、凡有る、惡意的、有心故意的手段もて、之を妨害し、有名無實たらしめつゝあるではない乎。

然もそれに慊らず、更らに南方に於ては、一に排日、二に排日貨。殆んど平和の世の中に、交戦國に對するより以上の、惡辣手段もて、我を窘むることを以て、其の日常の政策となすではない乎。

然も最近折角我が善隣の誼を表す可く、特派したる、長江の洪水見舞の使者をも受持けず、贈品をも拒絶し。我をして空しく好意の押賣をなすかの如き不面目の立場に陥らしめつゝあるではない乎。

我等は實に支那要人等の心理情態に就て、疑惑に勝へない。彼等は宛も排日を以て、彼等存在の理由となし、排日貨を以て、其の畢生の天職と心得つゝある様だ。手近き話が香港に於ける支那人の妄動を見よ。

以上はほんの事實の要領を、極めて簡明に陳べたるに過ぎない。若し少しでも事理を公明に見る者あらば、我が日本帝國の如上の立場を諒解するは、左程難事ではない。故に我等は國際聯盟が、必らず諒解する者と信ずる。最近の情報によれば、國際聯盟は正しく我が態度を是認してゐる。

我等は外に向ては、別に餘計な心配は入らない。若しその心配が必要とあらば、それは内輪の事だ。何故に我が朝野の政治家は、斯る國家の大事に際して、尙ほ偏黨の見を固執する乎。對外問題に就ては、國論は當然一致せねばならぬ。國民は當然協賛せねばならぬ。

### 國家大試練の一時

昭和六年十一月十五日午前、記者は偶然にも第八師團の兵士諸君が、滿洲に赴くを、品川停車場の邊に見送りて、端なく明治三十七八年來の氣分を味ひ得た。

知る者も、知らざる者も、老少、男女の差別なく、何れも手に手に小旗を打

ち振りて、喝采、歡呼した。而して汽車の内からも、其の箱からはみ出さん計りの兵士諸君が、之に應じて、萬歳の聲を和した。此の光景を見れば、我が大和民族護國の精神は、決して消磨しては居ない。

我等は決して故らに國家の危難を請來せんとする者ではない。されど若し回避す可らずんば、若し回避す能はずんば、之を正視し、之を正迎し、潔よく我が國民の力を、試みるを遲疑する者ではない。

現在の危局に就て世間の或る人々は、頻に悲觀説を、逞うしつゝある。悲觀にせよ、樂觀にせよ、各自の見識より來るものならば、致方はあるまい。されど我等は今日の國難は、寧ろ天が我が日本帝國を祚まひひする所以ではないかと思ふ。此れは負惜みでも無い。況んや自から欺いて、強ひて自から慰むるでは、

猶更ら無い。全く斯く信ず可き理由ありと信じてゐる。

實を云へば明治三十七八年役以來、我が國民は、餘りに安樂無事に陶醉した。而して其の陶醉の結果は、國民の全部と云はざるも、其の大半を擧げて、殆んど自墮落となつて來た。自暴自棄となつて來た。此の情態にして推移せん乎、我が帝國の前途は、奈落の底に落ち込む外はあるまいと思はれた。

然るに今や天は我が國民に向ひ、願はざるに意外にも、大なる試練を與へ、且つ與へんとしつゝある。我等は之を認めて、如何でか感謝せざる可き、如何に其の苦痛は、劇甚なればとて、若しそれが日本の再生復活の作用と知らば、我等は泰然自若、之を辛抱せねばならぬ。而して我が國民には、今尙ほ其の辛抱力が、多量に貯蓄せられつゝあるを見る。

日本國民は、蠻勇でもない、盲勇でもない、固より兇勇では猶更ない。されど其の國家に殉ずる勇氣は、世界の何人にも譲らない。而して今日は實に我が國民が、此の勇氣を發揮す可き一時である。而して其の發揮は、日本が自ら新たにする所以にして、且つ其の百尺竿頭一步を進むる所以である。

### 明治天皇の御遺業を没却する勿れ

明治天皇の盛徳大業は、明治半百年史上に赫々として、數へきれない程度であるが、今まそれを大別すれば、第一は内治、第二は外政。而して明治の上半期は、寧ろ内治に専らにし、その下半期は、概ね外政が振うた。而して滿蒙に於ける權益は、實に其の賜物である。

日本は決して露國と好んで砲火を交へたものではない。辛抱に辛抱し、交讓に交讓し。到底露國の申分通りには、日本國の國防さへも、安全を期する能はざるに至りて、茲に生死一擲の勝負を試みた。而して其の効果が、滿蒙に於ける日本の權益だ。

手近く云へば、朝鮮無ければ、日本が守れぬ。滿蒙無ければ、朝鮮が守れぬ。朝鮮は國防の第一線にして、滿蒙は國防の第二線。此れが明治三十七八年役の意義だ。此れより多くもなければ、少くもない。此れが全き意義だ。

然るに此の意義が、歲月と與に稀薄となり、今や全く没却せられんとしつゝある。若し此の儘に經過し、我等が國財二十億圓と、同胞十萬の血肉とを犠牲としたる、此の明治天皇の御遺業を、滿蒙より一掃せられ去るに於ては、我が

日本帝國の前途、亦た知る可きのみ。

我等は決して無暗に事を好むでもなく、殊更らに強がりやを云うではない。但だ生を明治の御代に享けて、其の活ける歴史に遭際してゐるが爲めに、それ丈の記憶を、今茲に喚起して、我が忠愛なる同胞に訴へずして止むことが出来ない。

如何なる國家でも、自衛の権利がある。日本が世界の一國として、國を建つる上は、自國の防衛は勿論、其の國民が生活し、棲息し一呼一吸する丈の地積は必要だ。誰か我が日本帝國が、其の出口を島嶼以外に求むるを不思議とする者あらん哉。北米合衆國の如き、自から大陸に龍蟠虎踞しつゝも、尙ほ自から壓れりとせず、朝に布哇を併せ、夕に比律賓を呑んだではない乎。

我等は大陸には、野心は無い。但だ我が自衛、自給の權益を、保持するに於ては、頂天立地、誰に向ても何等遠慮會釋のある可き筈がない。此れが我等が滿蒙に對する最後の決心だ。

### 明治節

一年の好時季、天は碧に、菊花は馨る。我等は何となく腹帯を締め直さねばならぬ氣持となつて來た。而して此の如くして、我等は爰に明治節を迎へた。

我等明治聖代に其の半生を送りたる者には、十一月三日は、やに言葉には語り盡しがたき床しさ、なつかしさを感ずる。それは曾て此日は、我等の敬愛し奉りたる明治天皇の天長節であつた。而して今やこれが明治天皇の神在し給へる明治神宮に因みて、明治節となつて來た。此の佳辰に於て、何人か我が明治



天皇を思慕し奉らざるものあらんそや。

今や我が帝國は未曾有の國難に遭遇してゐる。此の國難が、如なる形式を以て、發現し來るかば、未だ猝かに豫言し難い。されど前途の雲行は、頗る險惡だ。而して我等の憂憤に堪へざるは、我が國民の一半は、此の險惡の雲行に、殆んど無關心の情態である。

一事だ一方には思想善導と云ひ、若しくは節約力行など、云ひつゝも。國民の一半は、遊戯に熱中し、享樂に耽溺し、殆んど國家生死の大問題などは、馬耳東風に閑却しつゝあるが如きものがある。

特に我等が尤も遺憾とするは、我が政黨者流の態度だ。所謂る與黨が、殆ん

ど當局の頤使に甘じ、其の爪牙たる以上に出づる能はざるは勿論。所謂る野黨杯も此の危機に際し、唯だ手を濕さずして魚を捉るの方便のみを焦慮し。朝野兩黨を擧げて、政權の與奪以外には寸歩も動くことは出來ぬ體たらくではない乎。

我等は尙ほ此の以外にも云ひたき事が山々ある。我等は今日の君側に山岡鐵舟の如き、朴忠、剛果、侃々、諤々の志士を見んことを欲し。元田永孚の如く冥忠、孤誠、君徳をして、萬民に光被せしむるを以て畢生の任と爲す老臣を見んことを希ふ。我等の注文は、決して朝野の兩黨のみには止らない。

此の明治節に際し、我等臣民は、吾が皇室の萬々歳を祈願し、我が國運の彌榮を祝福し、端なく即今の時事に就て、所感の一片を諸る。唯だ仰ぐところは、

明治天皇の大御心が、今も昔の如く我が皇國の上に照臨し給はんことである。

### 滿洲に對する我が國民の決心

滿洲を月世界同様に、看做す人々によりて、滿洲に於ける日支の葛藤を處理せんことは、固より容易の事ではあるまい。而して斯る人人の處理に、その儘叩頭頓首す可き理由は、我が日本帝國として、斷じて、斷じて、持たない。

一方では國際聯盟に沒交渉の米國を招待參加せしむるとか。せぬとか。若しくは國際聯盟とは、無關係の不戰條約の條文を、我に突き付けるとか。餘計なる暇潰しをなしつゝある際に。滿洲にては土匪に比す可き支那の軍兵が、處々に出沒して、わが守備隊を襲ひ、我が在滿の同胞を傷けつゝある。此れが即今の現狀だ。

斯る現狀に處して、我が日本國民は如何す可き。曰く「正を踏んで懼るゝこと勿れ」我等は飽迄も我が正義に仗りて、國力を賭しても、之を把持せねばならぬ。所謂る此膝一たび屈して、復た伸ぶ可らずとは、此の場合である。

由來日本人は朝氣は盛んにして、暮氣は衰ふ。前は勇にして、後には怯とならざるまでも、倦疲の餘は怯と同一の趣を呈するもの、往々にして歴史上の事實が我等に教訓するところ、彼等は此の實物教訓に據りて、此處に一番腹帯を締め直さねばならぬ。

三年立てば三つとなる。日本の開國も、既に七、八十年を過ぎてゐる。今更ら他國の恫喝に畏怖して、それに屈從するには、餘りに日本は成長してゐる。

我等は自から横暴を行ひ、横車を推すを欲せざるばかりでなく、他人が我等に向て之を行はんとするに於ては、敢然起て之を排除す可き義務を持つてゐる。乃ちそれが今日である。

×

×

×

固より我等は辛抱せねばならぬ。されどその辛抱は、我等が主張を抛却するの辛抱ではなく、貫徹するの辛抱だ。我が芳澤大使は、聊か幣原外交の舊き殻を破りて、自主的外交の本色を發揮せんと努力しつゝある様だ。されど大使をして成功せしむると否とは、一に繋りて我が國民の後援如何に存する。

×

×

×

我等は今更ながら佛國民が、他の憎まれ兒となりつゝ、遂ひに其の主張を達し得たる先例を、想起せざるを得ない。我等の滿洲に於ける決心は、山の如く動く可らざるものだ。我が國民は此の決心と與に其の運を與にせねばならぬ。

### 超黨派的問題として解決せよ

滿蒙問題に就て、世論が漸く活氣を帯び來りつゝあるは、我等の中心より感喜するところ。但だ此の機會に於て、從來屢ば言説したる一二點を繰り返すの必要がある。

×

×

×

(第一) 中村大尉慘殺事件は、總ての問題でなく、總ての中の一片だ。今更ら之を解決したとて、滿蒙問題が片付くものではない。我等は更らに滿蒙問題を、根本的に解決するの決心と、覺悟とを要する。世論は須らく、木を數うると共に、林を記憶せよ。

×

×

×

(第二) 滿蒙問題をして、今日に至らしめたるは、一面から云へば自業自得だ。

超黨派的問題として解決せよ

我等は明治天皇の大業の一であり、我が同胞の鮮血の代償である大陸經營を、殆んど閑却し。然らざれば殆んど無軌道的に妄斷、妄行し。然らざれば之を國家的見地よりせずして、黨派的若しくは階級的、獵利の對象としたる結果と云はねばならぬ。

×

×

×

(第三) 更らに深く立入りて考うれば、最近十數年間、支那人の間に醗酵し、醗酵しつつある排日精神が、此の一角に發揚したるものと認む可き理由がある。されば假令一時滿蒙問題は、片付け得たりとするも、此の精神の存せん限りは何時迄もそれが擡頭し、それが勃興し。それが滿蒙は愚るか、支那全國と云はんより、支那人の分布する世界各方面に暴露するものと覺悟せねばならぬ。

×

×

×

されば世論は單に中村大尉慘殺事件に就て、激昂するも、此の事件の奥には

更らに如上の重大問題が蟠まり居ることを忘却してはならない。乃ち時は一時であり、場所は一局部であり、事は一件であるも、其の絲を引けば、大なる網に引き罹ることを豫期せねばならぬ。

×

×

×

斯る重大問題なれば、我が舉國民の力を一にし、舉國家の力を傾けて、此れが解決に従うも、尙ほ未だ十分ではない。然るに此を一部の軍人や、一派の政黨者流の手にて、解決せん杯とは、思ひも寄らぬこと。我等は此に於て、國民的問題は、國民的に解決せよ。國家的問題は、國家的に解決せよと云ふ。乃ち政友會にせよ、民政黨にせよ、何れも超黨の見地より、此の問題に對せんことを望む。政黨以外の人士は、固より云ふ迄もなし。

## 二 一の道

何も觀察次第だ。即今の時局も、兎も角も切り抜けようと思へば、切り抜けられぬこともあるまい。されど眞面目に考察すれば、正しく難局だ、大難局だ。

元來樂天的なる若槻首相のことなれば、何とか風の吹き廻しにて、暗礁に乗り揚げず、船を彼岸に達せしむる積りもあらう。果して其通りならば、我等は強ひて内閣總辭職を勸告せざるも。是非此の大難局を處理する丈けの責任を竭さんことを切言せねばならぬ。

今や我が内閣は、内外にかけて、容易ならぬ危機に直面してゐる。國民經濟の按排は愚ろか、來る可き年度の豫算さへも、殆んど手に著かぬではない乎。外に對しては、第一が滿蒙事件の善後策。第二が排日貨の杜絶策。何れも未だ何等の目鼻が付かぬではない乎。

我等は改めて若槻首相に質問する。果して如上の難件を、首尾克く處理し得る覺悟ある乎。有らば仕合せだ、是非共その通りやつて貰ひたい。徹底的にやつて貰ひたい。

若しその見込無しとせば、今日只今内閣改造などの小細工をせず、男らしく、第一に内閣總辭職をなし、聖明に向て國民の多數を代表し、内外の信望を博するに足る、有力なる内閣の出來せんことを上奏し。所謂輔弼の重責を全うするが、賢明の仕業だ。

要するに道は二のみ。民政黨内閣にて、遣り透さんとせば、それでもよし。唯だそれならば我が國民の要望を、徹底的に實行し、國民をして、遺憾なから



現状だ。此上如何に紛亂す可き乎。それさへ見當が付かない。滿洲方面は勿論、天津の騒ぎも、決して油斷はならない、而して南方に於ても、如何なる事件が突發す可き乎、それさへ保證の限りでない。云はゞ其處からも、此處からも狼火が上りつゝある。

x

x

x

何れにしても對支問題は、今日や明日の事ではない。我等も持久永忍の覺悟を以て、緊かと腹帶を締めてかゝらねばならない。それには我が内輪の纏まりをつくること、何よりの要件だ。その要件を充たす爲めに、我等は繰返して舉國一致の内閣を主張する。

x

x

抑も今日の民政黨、及び政友會の諸君は、政黨國民乎、日本國民乎。我等は各位が此の先決問題に付て、再思、若しくは三思せられんことを望む。若し諸君

が一點愛國の熱誠あらば、今日は政黨人を罷めて、日本人となる可き一時だ。

x

x

x

單り政黨者流ばかりでない。今日の日本は餘りに部分的に割據し過ぎてゐる。單一の日本國內に、軍人國もあれば、實業國もあり、宗教國もあれば、學者國もある。或は金持國もあれば。貧乏國もある。此の如く國民が、職業的に、階級的に、銘々分立、割據の結果は、勢ひ諸君が一木一枝に執著するのみとなり、全山が坊主に伐採せられても、尙ほ且つそれには氣が付かないことになる。

x

x

x

我等は今や日本全國民が、日本的に考慮し、日本的に行動する時節到來と思ふ。而して其の第一著は、先づ内閣を國民的に大改造するにありと信ずる。而して其端を自から發す可きは、主として若槻首相の責任だと思ふ。

### 憲政の常道とは何ぞ

帝國憲法には、政黨を認めてゐない。隨て政黨内閣を肯定もしなければ、否定もしない。超然内閣が、帝國憲法の本旨に遵由するものであると云うも、政黨内閣が即ち立憲内閣であると云うも、何れも帝國憲法とは、没交渉の讒言たるを免れない。

帝國憲法の眼中には、超然内閣もなければ、政黨内閣もない。唯だ萬機を憲法の定規に據りて親裁し玉う天皇と、その天皇を輔弼し奉りて、其の責に任ずる國務大臣あるのみだ。されば議會中心主義は、帝國憲法の精神と相ひ容れざるものであると同時に、政黨内閣を以て、憲政の常道とするも、亦た間違ひの見解だ。

政黨内閣であると否とは、帝國憲法には、三文の價値もない。時と場合によりては、政黨内閣も可、否政黨内閣も亦た可。要は只だ天皇を輔弼し奉り、其の責に任ずる、最善最良の國務大臣を得ると否とによりて定まる。

之を事實問題として見れば、我が帝國は、餘りに久しきに亘りて、藩閥内閣に引續きて、官僚内閣に煩はされた。此に於て彼れ是れより好しとして、國民は政黨内閣を歓迎した。然も即今の政黨内閣は、從來の藩閥、若しくは官僚内閣に比して、何等の特長を示さない。或る意味に於ては、寧ろ改善でなくして改惡の姿を呈しつゝある。

斯る場合に於て、憲政の常道などの、都合好き合言葉スローガンを製造して、國民に向

憲政の常道とは何ぞ



て、何時迄も、何處迄も、政黨内閣を押し賣せんとしても、我が國民は決して満足もしなければ、安心もしない。

内閣更迭も、甲政黨と、乙政黨と、相互交代するとなれば、全く其の更迭は自動的にて、何の造作も入らざれば、手數や面倒を省くには、好都合かも知れない。されど國家の政治は、單に朝野兩政黨の好都合や、内閣組織者の便宜のみを目的とす可きものではない。

我が議會中心主義者の、唯一の手本としたる英國さへも、最近の政變には、ジョージ五世陛下が、各政黨の領袖株と、直接接觸あり其上にて政黨的でなく、國民的に内閣が出来上つたではない乎。況んや議會中心國でなき日本が、政黨内閣のみに拘泥せねばならぬ理由は焉くにある。

今日の日本は、決して尋常一樣の場合ではない。然るに此の場合に於て、徒らに自から製造したる「憲政の常道」なる合言葉スローガンに捉はれて、其の進退の自由を失うは、是れ實に自繩自縛と云はねばならぬ。

我が帝國憲法は、天空海濶だ。政黨員にせよ、否政黨員にせよ苟も帝國臣民にして、聖鑒に中る者は、賢者位に在り、能者職に在りて、此の千載の一時に於て、皇猷を翊賛せねばならぬ。斯る時節に、尙ほ政黨内閣を、國民に向て、押し賣りせんとするが如きは、當人等の自殺ばかりでなく、國民に取りても、迷惑千萬だ。

### 小事件乎、大事件乎

小事件乎、大事件乎

我等は當面の時局を、決して容易の事ではないと、當初から識認してゐる。如何にその事件が轉んでも要するに我が日本帝國の死活問題と覺期してゐる。

×

×

×

然るに我が政黨者流は、此の死活問題をば、府縣會議員の選舉問題ほどにも大切には取扱はない。若し聊かにも大切に取扱ふ覺期あらば、與黨も、野黨も、黨人を罷めて、純粹の日本國民に、立ち返らねばならぬ。然るに與黨は、單に現在の政權に嚙りつき、野黨は熟柿の落ちるを、手を拱いて待つてゐる。

×

×

×

我等が更らに痛切に不快を感じるは、我が外交當局の態度だ。彼等は外交の事は、門外漢の關知する所ではない。此れは乃公等の繩張りで、一言たりとも、他の容喙を許さぬとの見幕だ。而して彼等は我が國民の義憤を無視して、只管ら他の鼻息を覗うに汲々としてゐる。所謂る三大使の聲明の如きは、何たる妄

語だ。彼等は徒らに眼前の雲烟を眺めて我が國民の前に此の重大問題を、事もなげに瞞過せしめんとするではない乎。

×

×

×

元來外務大臣は、何れの國の大臣ぞ。所謂る三大使は、何れの國の三大使ぞ。彼等は自から自家の國籍を吟味する必要はなき乎。

×

×

×

我が國民を餘りに愚視する勿れ。世界の情偽は、我等苟も一點國を愛する心あるものは、恒に心に掛けて、其の視察、研究、分析を怠らない。それたゞ然るが故に、我等は所謂る外交技術師の所作に嫌らず、國際政治の大局から打算して、其の國策を建明するではない乎。近くは今回の事件なども、露骨に云へば我が外務當局者は、辛うじて世論に引ずられて、今日に到つたではない乎。而して彼等は世論に追隨して、奔り且つ僵れんとするの情態ではない乎。

今更ら國民の前に、豫言者らしく未然を洞察して、彼是れ指導者がまじき言説を違ふするとは、何たる厚面皮である乎。我等は繰返す。日本國民國際聯盟を誤解したのでは無い。國際聯盟日本帝國を誤解したのだ。誤解の責任も心配も彼に在つて我には無い。

我等は事件が、彌よ重大に赴きつつあるを知る。而して此の事件に對しては我が全國民の力を擧ぐるも、尙ほ足らざる虞れを感ずる。今更ら之を過小視して、等閑に附し去らんとする徒輩の心持が我等には合點が參らない。

萬人一心の内閣を樹立せよ

明治三十六年、日露戰爭以前の事と覺ゆ。當時の桂首相は時局の重大に際し

て、とても其任に勝へずとして、辭表を捧呈した。その結果が、伊藤、山縣、松方諸元老が、相率ゐて樞府に入り、桂内閣を支持し。茲に舉國一致の實を做して、三十七八年役を首尾克く、了するを得るに至つた。

昭和六年の現時と、明治三十六年の當時と、其の局面は、同一ではない。然も其の困難の程度は、寧ろ當時に比して、現時がより多く、且つ大なるものがある。當時の對手は露國だけであつたが、今日は、殆んど世界列強を相手とせねばならぬ。相手とは敵とすると云う意味とは別だ。されど相手は矢張り相手である。

斯る場合に、若槻首相は、其の先輩である故桂首相に學ぶ所はなき乎。當時或人は善くも桂は、面白き芝居を打つたと評した、それが芝居であつた乎、眞

面目であつた乎。その鑑別は姑らく措き。桂公の措置は、正しく機宜に適中した。此の適中したる事だけは、何人も異論はあるまい。

正直のところ、若槻首相は、今後果して此の時局を、獨力にて開濟する覺悟ある乎。自信ある乎。決心ある乎。若しありとせば、強ひて彼是指圖がましき文句は持ち出すまい。されど我等は中心より心配に堪へない。而してその心配者は、決して我等ばかりではあるまい。否な何れの政黨政派に屬せざる者、概ね皆な我等と同一の感想を持つてゐる。

日本は政黨國と申せども、我が國民の大多數は、何れの政黨にも屬しない者だ。而して彼等は斯る場合には凡有る政權慾に超越し、身を以て國家に殉ずる政治家の出現を翹望せざる者はあるまい。若し此際若槻首相が、虚心坦懐、其

の同志を天下に求めば、時局開濟の事、決して難くはない。今日は何よりも萬人一心であらねばならぬ。それには若槻首相先づ自から双肩を脱ぎ、其の赤心を披いてかからねばなるまい。

記者は決して倒閣論者でもなければ、又た扶閣論者でもない。但だ國家の前途は、政黨の前途よりも重大なるを信ずるが故に、斯く率直に忠告する。

### 舉國一致内閣

日本の政界には、餘りに陳々腐々の氣分が王してゐる。何れの政黨も、其の幹部とも云ふ可き連中は、豫備後備の人々が多數を占めてゐる。否な少くとも其の主力を占めてゐる。其の長老は八十に手が届いてゐる。其の壯夫らしき者も、六十を過ぎてゐる。

我等は別に年齢のみを問題とするものではない。若し例を求むれば、老朽者の外に、老壯者もある。若壯者の外に若朽者もある。されど如何に年齢には重きを措かぬとしても、武内宿禰や廉將軍のみでは、世間の耳目を一新することは出来ない。内閣は養老院ではない。

我等は黨人的立場を超越し、國民的立場から、眞に舉國一致の内閣を希望する。されど此の内閣は、民政、政友だけの黨員の内閣ではない。固より兩黨の豫備、後備連中の白首を描へたる内閣ではない。我等の希望するは、人材内閣だ。同時に、少壯内閣だ。

凡そ如何なる時代にも、その時代を措置す可き人物は、必らず發生す可きも

のだ。古人は「世間無大事。天下有雄才」と謠うた。我が日本が如何に人材饑饉なればとて、今日の時局を處理するの人材が、皆無であるとは、信ぜられぬ。今日の憂は、人材無きではない、人材を採用せぬからだ。

姑らく記者の知る所を以てするも、政黨員の中にも、官僚の中にも民間の自由職業者中にも、若しくは貴族、或は實業者の中にも、相應の人物は存在する、然も今日の憂は、何れの方面でも、年功と歴史のみが、銓考の標準となりてゐる。所謂重しとするは、風袋にありて、輕しとするは實質にある。その結果が觀面に、幾度舞臺を廻はし、幾度役者を取り換へても、一向に代り晴れのしない内閣が出て來るのだ。

されば今日に於て、舉國一致の内閣を説くものは、必らずしも現役のみと云



事此に到れば、最早是非には及ばない。我等は我が滿蒙に於ける、當然の權益を保持する爲めには、萬障を排して、之に當らねばならぬ。而して此れと同時に、支那の非人道的、非國際的なる排日、及び排日貨の不法行爲に對しては、十二分の保障を得る迄は、斷々呼として假藉する所無きを要す。何時迄も、何處迄も。

×

×

×

我等は本來支那に對して、何等領土的野心は無い。唯だ共存同榮、善隣の好を全うせんことを、汲々として是れ圖つた。然るに彼の行爲上記の如きに於ては、何時迄勘辨しても到底埒の明く筈はなし。

×

×

×

世界列國は須らく我が日本の行動の公明正大なるを識認せねばならぬ。而してこれを識認せしむるの要は、何よりも國民的一致を先務と爲す。我等は如上の理由によりて、我が外交當局の生溫き聲明書を支持し、更らに一步を進めて、

その積極的意義を鮮明ならしめんことを、國民的意向を代表して、こゝに要望して措く。

### 後手打外交

若し是れをしも外交と云はねばならぬならば、我が幣原外交は、後手打外交と云うの他には、名稱は附けられまい。何は兎もあれ、只だ辯解や、申譯けのみにて、其日々々々を忙しく暮らし行きつゝある情態は、國民として如何にも心細き極みではない呼。

×

×

×

孫子は始は處女の如く、後には脱兎の如しと云うた。然るに我が幣原外交は始も處女、中頃も處女、終りは尤も處女である。何も一國が其の存立の必要上、自衛權を行使するに於て、他に氣兼ね氣棲の譯はあるまい。然るに如何に

も氣の毒相に、含羞みて、只管ら何方に向ても、謝罪でもする如き態度を做しつゝあるは、果して如何なる了見であらう。

米國が滿蒙の實況を調査す可く、視察員を特派する杯は、米國の勝手なれば、其の勝手に任せて然る可し。されど我が自衛權の行使に就て、萬一容喙するが如きあらば、それは我が帝國の繩張内の事にて、折角ながら御免を被るの外はあるまい。國際聯盟としても、亦た同様の譯合だ。日支の葛藤は、日支をして解決せしめよ。

所謂る二十七、八年役後に於ける三國干涉などは舊式外交の骨頂にして、今更ら現時に繰り返す可きものでもなく、又た繰り返さる可きものでもない、當時の日本は、三國の強制に餘儀なくせられて屈服したが。現時に於ては、再

び日本に熱湯を飲ましめんとする者はあるまい。萬一ありとしたならば、日本は覺悟せねばなるまい。羞を忍ぶも一時、羞を忍ばざるも一時。今日は羞を忍ぶ可き時では斷じてない。

今日に於て排日、排日貨の本案本元は、支那政府だ。乃ち政府が排日、排日貨の參謀本部であり、且つ司令本部である。此の明々白々たる事實に對して、世界は何と見る。斯る非人道的の害惡を、組織的に加へられて、我が日本國民は、尙ほ拱手傍觀せねばならぬ理由は、焉くにある。而して今日の排日は、明日の排白哲人となる、是れ必然の勢ひだ。知らず此勢ひを助長して、自から其の墓穴を掘らんとする者は誰ぞ。我等は賢明なる第三者が、必らず此處に考慮す可きを信ず。



併し、第三者が如何なる見解を持つにせよ、持たざるにせよ、我が日本帝國は自から存立せねばならぬ、存立する爲めには、自衛權の行使は、必須である。此れは日本帝國の世界に對する立場だ。此の立場は我が舉國民によりて支持す可きは勿論である

### 日英の關係

近頃英國の日本に對する態度が、怪しからんと憤慨する者がある。併しそれは憤慨する方が間違ひだ。日本の爲めに存する英國ではない、英國は英國の爲めの英國だ。そが日本に友誼を表するも表せざるも。自國の利害の打算からだ、その以外でもなければ、以上でもない。

× × × × ×

元來日英同盟は何の爲めに出で來つた呼、抑も亦た日英同盟以前、英國は如

何なる態度もて、我に臨みたりし呼。將た日英同盟は如何にして、如何なる場合に打切りとはなつた呼。若し最近五十年間の日英交渉史の概略を點檢したらんには、思ひ半に過ぎるものがあるであらう。

× × × × ×

明治二十七八年役迄は、英國の東洋外交は支那本位であつた。然るに爾來日本の實力を認め、日本を以て、英國の東洋に於ける番犬となすの必要を認め、その爲めに日英同盟は出で來つた。然るにその仕事は、明治三十七八年役にて、略ぼ濟んだ。而して却て番犬其物が、英國と東洋に於て、角逐せんとするの情勢を馴致した。

× × × × ×

併し英國には露國以外に、獨逸と云ふ新たなる相手があつた。その爲めに日英同盟は、兎に角存續せられた。固より氣の抜けたる麥酒の如くにして。然もその



盛頓會議に於て、得意の宣傳術もて、世界の耳目を驚かしたるも、決して不思議とするに足らない。

×

×

+

されば今回の事件に際しても、彼から喧嘩を仕掛ながら、我が談判を開始する先手を打ち、我に向て抗議を申し込むなど、俚諺の所謂盗人猛々しとは、實に此事だ。我等は霞關の諸僚が、今更ら泡を喰つて、東徬西徨しつゝあるを、氣の毒千萬に思ふ。

×

×

×

併し問題は霞關の手際、不手際に限らない。我等は此の機會に於て、萬障を排しても、帝國の滿蒙に對する條約上の權益、歴史上の權益、既成事實上の權益に就て、之を確實に保障する丈の地步を占めねばならぬ。此に就ては、第三者に於て、固より容喙す可きものではなく、又た容喙せしむ可きものでもない。

い。此れは世界が公認したる公道を行ふに過ぎない。支那人の宣傳術には、世界も既にうんざりしてゐる。

×

×

×

我等の眼中には陸軍もなければ外務省もない。古の武門武士の時代はいざ知らず。今日に於ては何れの市民も、軍服を著すれば軍人であり、軍服を脱すれば市民である。我等は殊更らに軍人として、我が國民の中に、特殊階級なるもの存在す可き理由を認めない。

×

×

×

何は兎もあれ今日となりては、只だ我が舉國民の力を一にして、最近十數年間日支の間に蟠りたる凡有る——殊に滿蒙に關する——掛案を片付けねばならぬ。若し此の機會を取り逃せば、恐らくは近き將來に於て、我等は今日に十倍若しくは百倍するの犠牲を拂はねばならぬ時節が到來する。



我等の現在に於て、最も心配に勝へざるは、政府部内に於ける外務と軍務との乖離、朝黨と野黨との乖離、硬派と軟派との乖離だ。而して我等が尤も聞くを樂まざるは、軍務の横暴など、云ふ文句だ。而して此等の文句が、動もすれば政府部内より漏れ來ることだ。

苟も我が國家的一致、國民的協力あらば、世界に對して、何物か能く我を畏怖せしむるものあらむ。内輪の喧嘩も、時と場合とによる。今日は我が國民が一切の行掛りを打ち忘れて、我が帝國の爲めに、百年の大計を扶値す可き一時ではあるまい乎。

古人は自ら反して、縮くんば、千萬人と雖も吾往矣と云うた。我等が滿蒙に於ける權益は、支那人は固より、英人でも米人でも、それぞれの機關を透して

皆承認しつゝある所。今更ら支那人の宣傳に乗りて、輕はずみに彼是と文句を吐き來るも、そは只だ一時の出來事にして、決して底深き審思熟慮の結果ではなからう。

日本帝國の運命は、日本帝國々民以外には、之を支持するものは無い。今日は決して對手の苦情や、第三者の蔭口にて、彼是喜憂す可きではない。我等は固より一定の方針に據りて、之を遂行せねばならぬ。此れが則ち自主的外交である。而してその自主的外交の前提は、國民的一致より始まる。

### 外交官と軍人

即今の時局に處して、我が軍部と外務部との間に、十分なる協調が行はれてゐないが如きの感想を、中外に與へつゝあるは、我等の頗る憂慮に勝へざるところ。

而して外務部では、頻りに軍人が出沙張り過ぎ、他人の畑に鋏を打ち入るゝかの如く非難すれども。我等は寧ろ現代の帝國軍人は、餘りに思案、分別が多きに失せずや、掛念する。併し此れは銘々の意見なれば、何れにても差支なし。

但だ公平に事相の上から觀察すれば、我等は軍人の出過ぎるよりも、寧ろ外務當局者の引込過ぎることを齒痒く思ふ。云はゞ外務官が、當然爲す可き事、爲さねばならぬ事をせぬから、軍人が餘儀なく其の分内にて、能う限りの事を做しつゝあると云ふが、恐らくは平允の見解であらう。

凡そ歩調には、自から一定の速度がある。然るに自から走らずして、他人の駆足を咎むるは、如何にも聞えぬ嘶ではない乎。我等の眼中には、軍人のそれ

さへも時としては、餘りに慎重の度が過ぎてゐるのではないかと思ふ。然るにそれを彼是と咎め立てをするが如きは、宛も中風患者が、尋常の歩行者を咎むるの類であらう。

更らに我等の心配に勝へざるは、我が外務當局者は、頻りに其の監視の眼を軍部に向け、出先の外交官をして、頻りに軍隊の穴探しを事とせしめつゝありとの評判だ。我等は斯る評判を信ずるを欲せざるも、又た斯る評判を、資料として、議論するを欲せざるも。何は兎もあれ、我が外交には、國民の九分九厘迄は、極めて不安心の情態にあることを告白せねばならぬ。

我等は決して幣原外相其人に向て、個人的に彼是云うではない。されど外相は本來外交技師にして、外交家ではない。外務省の畑に成長して、一通りの外

交のイロハには通曉しても、それが外交家と云う資格にはなれない。眞の外交家は、外交用文書を巧みに書くばかりが能ではない。陸奥伯の如きを見よ。

眞の外交家は、軍人などに遣りまくらるゝものではない。彼は事を機先に制して、軍人などをしてそれに追隨するには、奔り且つ僵れしむるものだ。

十三對一

ジュネーヴに於ける國際聯盟會議に於て、我が代表者たる芳澤大使は、最後まで力戦苦闘したるに拘らず、十三對一にて、其の主張は否決せられた。固より此れが爲めに、我が滿洲に於ける行動は、何等拘束せらる可き心配は無い。

併し今更ら云うて返らぬことながら。何故に日本對支那の單獨問題をば、國

際聯盟の問題として、持ち出すことに、我が幣原外相が同意したる乎を、口惜しく思ふ。特に自ら國際聯盟に御免を被りて、其の圏外に立ちつゝある米國が此際殊更ら陪席者として、參加するに同意したる乎は、言語道斷と云はねばならぬ。要は餘計な者が、餘計な世話を焼き、餘計な決議が出て來つた。

元來我が軍事上に於ける行動は、我が自衛上、餘儀なき結果だ。然るに其の自衛が、十分なる保障を得ざる以前に、期限を定めて、撤兵せよとは、何たる理不審の沙汰だ。若し一寸でも支那の現状を知りたらんには、斯る片手落の意見が持ち出さる可き筈はない。土匪や、馬賊は勿論の事。其の官兵が、土匪馬賊より以上の暴行を逞くし、我が國民の在滿者は、一日たりとも生を聊せざる現状に於て、支那人の空證文に安心して、撤兵など思ひも寄らぬ事。

我等は實際霞關の外交には、中心より齒痒く思つてゐる。されど過去は過去  
但だ今後は少くとも我が帝國の國民が、如何なる決心と覺悟とを以て、此の問  
題に處しつゝあるかを、確實に看取して、それを間違なく、取り次いで貫ひた  
す。

×

×

×

元來平和一點張りの國民が、此處迄決心し、覺悟し來ることは、よくよくの  
事だ。餘りに支那が傍若無人に、我が正當なる權益を蹂躪するからの事だ。然  
るに事今日に到りて、此上更らに支那ばかりでなく、列國の力を假りて、更ら  
に我が權益を蹂躪せしめんとするに至りては、何の爲めの外交を何の爲めの外  
相ぞ。

×

×

×

我等は根本的に我が自主的外交の扶植を望む。我等は根本的に、我が幣原外

交の立て直しを望む。支那人得意の惡宣傳に酔ひ、聯盟國の多數者が、我が主  
張を容れなかつたとて、今更ら失望もしない落膽もしない。日本の運命は、  
日本全國民が、自から之を支持するの外はない。それにしても我が霞關の決心  
と覺悟や如何。心配は國際聯盟ではない。我が脚下だ。

### 貧者の一燈、富者の萬燈

諺に貧者の一燈、富者の萬燈と云ふ。然るに今や貧者の一燈は、自發的に、  
隨意的に、快進的に、此處からも、其處からも、我が滿洲に於ける、軍隊に向  
て、同情の物的表現をなしつゝあるに、所謂富者の萬燈は、杳として其の消  
息が出て來ない。

×

×

×

此に於て世間では、種々の物論を醸しつゝある。現在記者の机上にも、若干



の投書が到来してゐる。それは何れも我國の富豪の方々に向ての注文である。中には随分思ひ切りたる皮肉も交りてゐる。されど記者は、それを其儘紹介する必要を認めない。此處には單に其の正味だけを紹介する。

申す迄もなく、今回の事件は、固より我が自衛權の擁護に止まりて、それ以上の花々しき戦争を開始する譯ではない。併し戰場に臨む軍隊諸君に於ては、其の目的が何れにせよ、何れも國家の爲めに、身命を賭して、奉公に勵む所になれば、我等背後の者は、凡有る同情を表現す可きは、此の一時であらねばならぬ。

乃ち滿洲からの消息は、一として我等をして感激せしめざるものはない。我が軍隊諸君は、實に我が帝國の爲めに、勇ましく、零下三十度の嚴寒中に、饑

餓と戦ひ、不眠不休と戦ひ、勞苦困窮と戦ひ、最後に敵と戦うてゐる。

然るに我が凡有る階級の者は、皆なそれに向て同情を表示しつゝあるに、獨り富豪の諸君のみは、對岸の火視するは、何故ぞとの苦情だ。而して中には支那の水害には、此方より多大の賑恤品を態々運搬船を仕立て、贈りたるに——それも不幸にして、相手方から謝絶せられて、其の物品の處分に、今以て當惑、してゐると云ふ——獨り同胞の軍隊に就ては、恬として關知せざる如きは何ぞやとの苦情である。此れは尤もの苦情だ。

記者は別段富豪各位の辯護士たる任務を持たない。併し惟うに各位其の時期を待つてゐたのであらう。果して然らば、最早時期は到来してゐる。希くは各位も、國民の一部として、其の身代相當の奉公をせられよ。此れは本文の記者

の私言ではない。天下の公言だ。

### 詩人の忠憤

支那の詩にて、當代の時事を詠じたるものは、詩經を始めとして、歴代の詩家、其人少くない。唐の代表的二大家李白、杜甫の如きも、其の全集を精讀すれば、意外なる邊に、意外なる拾ひ物が落ちてゐる。特に杜甫の詩は、詩史と稱せられたる通りに、それが隨處に見出さるゝ。

三川北虜亂如麻。  
但用東山謝安石。

四海南奔似永嘉。  
爲君談笑盡胡沙。

此れは李白が、安祿山の亂を詠じたるもの。永嘉は晋末の年號にして、當代を晋末五胡の亂に比したるもの、柄にもなき詩人が、自から謝安に比するは、浮

誇の大言に似たるも、一片雄快の心境は、今尙ほ其聲を聞く感がある。

英雄見事若通神。  
燕趙休矜出佳麗。

聖哲爲心小一身。  
宮園不擬選才人。

此れは杜甫の作だ。玄宗皇帝は女色の爲めに、天下を大亂に陥れた。今更らそれを繰り返す可きでない意味を、謁諫したのだ。

李杜の昔話は姑らく措き、予の同甲の友、沼津市の隱士池谷觀海翁は、頃ろ予に向て、左の六絶を寄せ來る。

天涯望斷氣蒼茫。  
舉斧向人何所怒。

極北傳聞已履霜。  
秋風滿野躍螿螂。

此の螿螂の斧は、何者が揮ひつゝある乎。

多年排日課童兒。  
誤國小人蛇蝎智。

教育功成社稷危。  
可憐終見有窮時。

排日教育の惡結果は、却て支那人の上に来る、宛も是れ天上に向て睡するの類である。

維新大業憶前時。  
禦侮折衝尊俎上。

意氣尙存王六師。  
文臣何策護皇基。

幣原外交に向て、三嘆否な三百嘆せざるを得ない。

亂邦無復顧安危。  
宰相深謀出奇策。

戰意遙看白羽麾。  
威嚴抗議勝偏師。

敢て問ふ奇策ありや否や。反語を以て之を出す、但だ深人之を知る。

朔北馬肥秋氣馳。  
太平宰相風雲外。

黑龍江畔動旌旗。  
舉酒應歌却敵詩。

三百の痛棒に勝る。

秋風鱗鱗入邊笳。  
憂見李牛相閱去。

戍卒關山歸路陀。  
欲將休戚委他家。

黨人之を誦せば、必らずや深省を發せん乎。

以上の六首、辭婉に義嚴。眞に言者罪無く、聽者戒むるに足るものがある。詩も此の如くして初めて徒作でない。

### 協調乎、迎合乎

若槻内閣は、誰が統制する乎。今日では各省殆んど銘々の運動を、勝手次第に做しつゝあるではない乎。特に外務と軍部に、於て尤も然りとす。事實を

云へば、各省はあるが、内閣は無い。

x

x

x

今回の米國々務長官スチムソン氏が、對日本の威嚇的非友誼的宣言は、申す迄もなく、我等に最大の不快を與へたが。然も自から其非を認め、之を取消したりとすれば、其上追求する必要はあるまい。但だ此の事件と關聯して、我が幣原外交が、國際協調の範圍を踰えて、國際迎合を是れ勗めつゝある、醜體を遺憾なく暴露し來りたるを看過する譯には參らない。然も我等は、其の詳なる次第を語るまい。之を語れば國辱となるからだ。

x

x

x

本文の記者は、出來得る限りに於て、英、米の外字新聞雜誌を通讀してゐる而して其中——十月以降十一月に至る——に看取する二個の事相がある。(第一)は日本が生意氣にも、國際聯盟に楯を衝くとはけしからぬ事だ。けりつけ

て仕舞へ。(第二)幣原男爵は、國際協調を保つ可く、全心全力を擧げて努めつつあるが、軍部の帝國主義者が、勝手放題の舉動を做すから致し方がないのだ先づ如上の二箇條が通り文句だ。

x

x

x

謂はゞ日本以外では、幣原外相及び其の部下が、獨り好い兒となりて、自餘の者は、惡る者となりてゐる。此れは必ずしも我が外交當局者が、己を潔くせん爲めに、責を他に轉嫁す可く、卑劣千萬の事を逞くする爲めではあるまい。我等は決して、彼等をそれ程迄には、見下ぐることは出來ない。併し外務當局と、軍部當局との間に、眞成の戮協が行はれてゐないだけは、疑うの餘地がない。

x

x

x

元來白人は、他の所謂る有色人種を劣等人種視してゐる。されば其者共が白

人等の命令、指圖に盲從せざれば、忽ちに彼等の尊嚴を冒瀆するものと認め、直ちに懲罰を加へんとする。外字新聞の口吻が、宛も其の通りだ、然るに我が外務當局が、此風に迎合して、強ひて彼等の驕心を得んとする。此に於て外國第一、自國第二となる。而して其の結果が、スチムソン氏の宣言として出で來つた。

×

×

×

我等はスチムソン氏の宣言が、取消されても、尙ほ取り消され難き印象を剩してゐる。詮じ來れば、即今の憂は、外では無く、内である。我等は此の國家危急の一時に際して、今少しく有力にして、且つ統制ある内閣の發現を必須と信ずる。而して外務省は、日本帝國の外務省だ。今少しく威嚴があり、今少しく信用があらねばならぬ。

## 國難に處して

大谷光瑞

## 正義の國日本

私は國際聯盟といふものはまことに尙ぶべきもので、世界の平和を維持する上について至極結構な機關と考へてをる。しかしながら今回のやうに世界の平和を破るやうなことを聯盟自からがしては承知がならない。が聯盟の理事國ではこれで平和を維持することが出来ると思つてをるのでせう。破らうと思つてはをりますまい。しかしその行爲が平和を破ることになる。何となれば聯盟理事國の人々、ことにジュネーヴのその席に列してをる人々は、支那がどんな所であるか、滿洲はどういふ状態であるかといふことを、なんにも知りません。知らずして、支那が嘘を吐くのを、少々懸け値はあるにしても、まア二割引きぐらゐといふのでそれを信ずる。日本が本當のことをいうても、やはりこれも二割ぐらゐの嘘があるやうに思ふ。虚偽を基礎にして、物を判斷すれば間違ふにきまつてを、

る。私は人を罵詈することは好みませんけれども、ブリアンにせよ、ドラモンドにせよ、セシルにせよ、今度は辭めました、前のロード・レディングにせよ、どうもいかにも、支那に關する知識の低い人だと思つて驚いてをる。私どももあるひは、自分たちにあまり見えぬ遠いところで、何か事でも起ればあゝいふやうな間違つた判断をし、間違つたことをいふかも知れない、これはまことに自分としてもよい戒めである。しかし私どもの場合は、一個人であつて自分の淺學を恥入るだけで濟みますけれども、聯盟に列席してゐる代表者は、自分が淺學だからといつただけでは濟みません。それがために世界の平和を維持するつもりでやつたことが、平和を攪亂してをることになる。誠にどうも困つた先生の寄合ひで間違つた議論、嘘の報告、また淺薄な知識、かういふものが寄り合つて、出て來たのが國際聯盟の今日の議論である。

支那は大昔から嘘を吐くのがあの國の風であつて、決してこれは、今度國際聯盟に對してのみ嘘を吐いてをるのではない。しかし今日は嘘でも吐かなければほとんど策はありますまいが、いかなる場合でも嘘を吐いてをる。すなはちいつてをること、實際とは全く大へんな違ひで、外國に向つてばかりでなく、國內でもさうである。われ／＼のやうに支那を熟知してをるものは、あゝいつものことだと思つて、別段嘘だとも考へませんし、本當だとも感じてをらぬ。また體裁に何かいうてをるなアと考へる。ところが、聯盟に出てをる連中は皆その國において一流の紳士であつて、自分の言葉、自分の行ひに悉く信義を持つてをる人である、さういふ人だから自らを以て他を計る。悪いことにもせよ、よいことにもせよ、自分が正しい人だから、苟くも國といふものを作つて、その國を代表して來るやうな人は、さう／＼嘘はいはないはずだと思つてをる。が支那は決してさうでない。國であらうが、個人であらうが一から十まで嘘の塊である。どうも惜しいことには今ヨーロッパにはたれも、それだけ支那のことについ

てわかつてをる人がをらぬやうです。昔はだん／＼とわかつた人もありました  
 が、さういふ人は、死盡くして今はたれもをらない。をらないから自分が正直だ  
 から、人もさうだといふ考へである。ところがわが政府は、これだけの強國の面  
 目もあるし、かつまた今日まで國際信義には、一ぺんでも嘘を吐いたことがな  
 い。日本の政府のやうに條約に堅いものは日本政府以外にはない。日本政府は  
 いつでも正しく條約を守る、日、本、ぐ、ら、ゐ、正、義、を、守、り、信、義、を、た、つ、と、ぶ、國、は、世、界、中、  
 に、他、に、一、つ、も、あ、り、ま、せ、ん。外國に對して嘘を吐かぬだけでなく、國內でさうで  
 ある。「嘘を吐くは盗人のほじまり」といつてそれをいやしめる習慣になつて  
 をる。それだから、聯盟に對しても本當のことをいふ。その支那の嘘と日本の本  
 當とを合せて、二で割らうといふのが國際聯盟で、その判断が狂うて來るのは  
 當り前のことである。

### 經濟絶交と日本

もう一つには、日本の國民が、國際聯盟とは五十五國が調印してをるとか、何  
 とかいふことで、大變勢力のあるものゝやうに思つてをる。私共はさういふや  
 うな、勢力があるとは少しも思はない。何となれば、嘘に動かされるやうなもの  
 が、何百國集まつてをつたところで何でもない。ほんとのことで論ぜられるなら  
 一國にでも頭を下げなければならぬけれども、嘘を信用してその嘘でかれこれ  
 何とかいつても、そんなものは、何百國連らなつてをつつても、一向私は何とも思  
 はない。それを大へんなことのやうに思つて、憂慮したり危惧したりする人が  
 ありますが、自分はイツでも、そんな人に對してはかう説いてをる。

「國際聯盟が嘘を聞いて、その嘘を基礎にして説を吐いてをる間は、さらに心  
 配におよばない、世の中に嘘で成功したことは、人類初まつて一ぺんもないの



であるから、さういふことをすれば罰が當らう、國際聯盟がこんな状態の間は恐れるに足らない」と。また聯盟規約第十六條の經濟斷交といふやうなことは絶對に、なし得べからざることであるが、それに對しても、日本では危惧してをる人がありますから、本紙上に於てはつきりいうて置かねばならぬのは、もし經濟斷交をほんとにやつてくれたら、日本の非常な幸福である。今日まで輸入超過で困つてをる貿易が、輸入超過になりませず、完全な自給自足が出来る。日本の國內において、實際に足らぬものといへば極めて少い。綿花が五億圓も輸入されてをるから、外國の目から見れば、綿を止めたら日本はふるへ上るだらうと、思つてをるかも知れぬけれど、六億、七億の輸出をしてをる、生糸を着物にして着てをれば、綿の着物を着ないでも一向日本人は寒がらぬ。羊毛がなくなつたらといつても、これは大部分は、いはゆる日本の洋服と名づけるものが羊毛で作つてあるので、これも絹のものを着たらそれで仕舞です。私が今着てをる洋

服も國産の絹である、これを着てをつても、羊毛のものに比べて不便とも思はない。下着のごときは絹で結構、またその絹に幾らか入れる羊毛——二割ばかり羊毛が交つてゐる、それからせひ羊毛でなければならぬといふやうな、僅な羊毛なら帝國の領土内にもありますし、かつまた滿蒙より輸入して來ることも出来るし、羊が一匹も日本および滿洲にをらぬ譯でもないから、さういふことは一向恐れぬ、そのほか食料にしても、英國のやうに國內で穫れるものだけでは、自分の國のものが食ふことが出来ないやうなところが、經濟斷交でもやられたら、恐らく困るか知れぬけれども、日本では結構な米が出來ますから酒さへ飲まなかつたら、十分人間は生きて行ける。酒といふものは、飲んでも飲まなくてもよろしい。私どもは、一滴も飲まぬけれども、それで死にもせぬ。禁酒國になつたら、酒屋さんはちよつと氣の毒であるけれども、國民の衣食の點はまことに迷惑なしに濟んでしまふ。鐵も滿洲から來ますし、それに交通が開けて

をれば、海峽植民地からも持つて來ます。交通が止まれば鞍山の鐵だけ使うても、十分それで行けませうし、少し高いのを構はんとすれば、今日は砂鐵を十分鋼鐵にすることも發明になりましたから、日本の北部に持つてゐる處の砂鐵および、山陰、山陽に持つてをる砂鐵は、日本が使用するに十分餘裕があるくらゐの、埋藏量を持つてをるのであるから、今のところ値段が高いといふのでやらぬだけで、ないとなればそれを使へば一向困らない。さういふ風に考へて來れば、自給自足を日本に普及させる利益もありますから、三年間も經濟絶交を續けてくれたら日本は世界第一の富國になり、その後は絶対に輸出ばかりで輸入がなくなつてしまふ。出來るならもし三年も經濟絶交をしてくれたらそれは、天が日本に與へてくれる幸ひである。早くそんな風になれば結構ですが、そこまではようやりますまい。さうなれば金貨も外へ出さず、金利は下つて來るし、日本の國民は鼓腹擊壤で誠に有難いとお禮を申す事が出來る。

### 經濟絶交と各國

これに對して外國はどういふやうになるかといふと、日本に經濟絶交をする時分には、日本は支那の沿岸を同時に封鎖してしまふ。支那や國際聯盟が亂暴な手段をとるやうになれば、日本も自衛上支那沿岸を封鎖する。支那の沿岸を封鎖することは、まことに大變なことのやうですけれども、臺灣の對岸から、北の方遼東海灣に至る間は何時でも、日本の國が支那の前に垣根をこしらへてをる。日本が支那の國に垣根をこしらへてをらないところは、たゞ廣東一省の沿岸だけである。それはまた香港といふものがあり、英領が中心となつてをるから、暫く捨て、おいても、臺灣海峽から遼東海灣までは、完全に日本が封鎖してしまふ。さうすれば、外國が支那と貿易をしようとしても、廣東一省以外には、なんにも出來ない。それから陸上の交通といふものは、支那では極めて悪く、加ふるに

廣東省の北の方、江西、湖南の兩省は、たゞ今では共產黨の巢窟になつてゐますから、廣東へ入れた外國品が北上して、支那の内地に十分入るといふことは、絶對に不可能なことで、共產黨に物を、くれてやるやうなことになる。支那がどのくらゐ外國品を買つてをるか、わからぬが、ざつと十億圓前後のものを支那としては、買はなければなりません。日本が物を買ふのは、年によつて増減がありますが、約廿億ぐらゐのものは、いつも外國品を買つてをる。この十億と廿億、すなはち卅億圓といふ大金は、世界の外國貿易から削り去られてしまふ。その削り去られた損害は、誰が負ふかといふと、聯盟に加入してをる國がみな負はなければならぬ。日本は自給自足をさせてもらうて、富んで平和を保ち、聯盟は餘計な馬鹿をして、卅億といふやうな損をしなければならぬ。かういふ結果になる、それだから、もしも經濟斷交をやつてくれたら、得をするのは日本で、損をするのは、五十五國の調印した聯盟の國々だといふ結論にな

る、それで、私は速かにさうなることを、頸を長くして待つてをるのであります。つぎはアメリカの態度はどうであるか。アメリカが聯盟の仲間に入るか、どうするかといふ問題。もしもアメリカが、自分は聯盟の國でないから、日本と經濟斷交は致しませんといつたら、アメリカ一人は得をして他の五十五國が損をする。もしもアメリカも馬鹿をすれば、五十五國と一しよに損をするといふことになる。この間オプザーヴァを出す出さぬで、アメリカの國內から攻撃を受けて困つた。全體昔からアメリカの傳統の方針であるモンロー主義を捨てるやうなことに國際聯盟に引ずられたのは、スチムソンの愚昧の致すところであると攻撃された。それ以來スチムソンも國際聯盟から手を引いて、獨自の方法によつて、自分は日支間の問題を處理するといつてをる。獨自の立場といふことは國際聯盟とは關係しないといふことです。關係しては獨自といふ字は出て來ない。おそらく五十五國が經濟絶交をしても、アメリカは加はりません

い。一億人もある國の事ですから、馬鹿もあるけれ共賢は人間もをる。苟くもフーヴァー大統領であるとか、スチムスンといへばやはりアメリカの方でも選抜きの賢い人だから自分の損のやうなことはしません。けれども日本としてはアメリカが一諸になつてやつてくれたら、日本はなほ有難い。いよく自給自足である。アメリカが加はつてくれなければ、なほアメリカから棉を買ふ事が出来るといふやうになつて、自給自足の原則が確立せぬから、私としては、アメリカも一しよの行動をとつてくれれば結構だと思つてをる。

これはアメリカの腹による事だから、私共がどつちになつてくれと、いへる譯ではありませんから、姑らく別として、聯盟は一日も早く、さういふ事をして貰ひたい。その前に何でも精神的威壓を加へるだらうといふ事を、新聞にも書いてあり、大公使を呼び返すといふ事も書いてありますが、精神的威壓といふやうなものは、子供瞞しで墓所へ行つて、そら幽霊が出るぞといふやうなのが、いはゆる

精神的威壓で、幽霊が出るぞ、お化けが出るぞといはれて恐がるのは、子供だけで、大人はなんとも思はない。大公使引揚げもよからう、小國どもは喜びます。東京のやうな物の高いところに行つてをつては、どうもいかん、よい機會に引拂はせて、くれるといつて喜ぶかも知れん。日本は大國であるけれども、これも今のやうに外國に、役人を出さんでよい事となるから、たゞさへ緊縮の折から、五百萬圓、六百萬圓といふ金がいらなくなれば——政府の豫算はどのくらゐか、はつきり知りませんが、安い金ではないので、それを國交を絶つた爲めに大公使引揚げとなれば、それは結構な事で、井上さんが一番喜ぶだらう、獨り井上さんばかりでなく、國民も喜ぶ、租税を餘計出さなくてもよいから。これも一ツ速かにやつてもらへば、日本の國の幸と思つてをりますが、どうもソコまであの連中がやれますか、支那に騙されるやうな智慧の浅い奴に、それだけの決心はつくまいと思ふ。そのくらゐの決心の出来るやうな奴なら、支那にごまかされるや

うな事はないと私は思ふ。それだけの腹はなからうと思つてをります。あつてくれれば、日本の幸福だと思つてをります。

### 日本は戦争には負けぬ

それから中には、外國と戦争になるかも知れぬといふ、憂慮をする人があるが、これは斷じてありません。國際聯盟は不戦といふ事を基礎にして、作られたものである、アメリカも不戦條約といふものを設けて、戦争はしないといふ約束をこしらへた。それが日本に戦争を吹つかける、といふことは考へられない。さういふ事はあり得べからざることである。また無關係の國が、何の必要で日本に戦争をしかけますか。戦争を外國が日本に對してするとは、どうも私は信じられません。絶対にやりませぬ、やれぬはずに定めてあるのだから。しかしこれも若しある一國でもやつてくれたら、日本の幸ひで、これも私は内心やつてくれる

のを、ぢつと待つてをる。何となれば、戦といふものは、勝つか敗けるかわからぬといふ時には、心配なものであるが、勝つに定まつてをれば、ちつとも恐くない。此處からこそ喧嘩はしないが、向うから来る喧嘩ならば、何時でもお相手申す。これは事少しく軍機に關しますから、私の書物にも斷つておきました。公衆の面前において、かくのごとき状態であるから、如何なる國が戦争をしに來ても日本は勝つのだ、といふ事ははつきり申しませぬ。がしかし國防は充實してをる。完全である。他を侵すための國防ではないが、自から守るだけの事は十分出來てをる、といふことは何人の前でも申し上げたい。のみならず、一つ實例を申上げると、最近嫩江橋で戦うたときに、四百前後の日本軍が、六千の支那兵に對してをる。十五倍の敵である。しかも敵は完全な陣地を持つてをつて、それにこちらは地形は不利、行進には悪い沼地を進んで行つて、四百のものが六千のものに對抗してをる。最後に千人前後の日本の應援隊が來ればすぐ様攻勢

に轉じて六千を盡く潰亂させてをる。これは新聞にもあつた通り、最近の事で見なよく讀者の知つてをられる事實である。この支那兵なるものは、今日までの支那兵とは丸で違つてをる。實に勇敢な支那兵で、なんでも武器もロシアから供給を受け、ロシア人の將校に訓練せられ、ロシアの將校も交つてをつたといふ説もある。ロシア人を使つてをつたか、をらないか知らぬが、とにかく非常な勇敢なものである。おそらく歐洲の陸軍でも極く精銳の部隊を持つてをる國のほかは、ちよつと勝味のないくらゐな強い兵であつたやうです。けれども五十時間ほどの間、四百で六千のものに堂々と戦つてをつた。十五倍の敵に對してをつた。敵の六分の一ほどの増援隊が來たら、もう六千の方は敗けて潰亂してしまつた。これで日本兵がいかに強いかといふことは、事實上證明してゐる。國防の事は、私は數字も質も申し上げたくないから申しませんが、この一例でもつていかに日本の兵力が優秀であり、日本の兵力なるものは世界を

敵としても、恐るゝに足らぬといふ事がわかつた。併し、これは決して攻撃に用ふべきものではない、「國防」といふだけで、決して侵略に用ふべきものでない。私どもは、戰略といふことはわからんが、向うから侵して來ても、それに閉口してをるといふ事は、日本人として、どうしても承知が出來ない。滿洲の權益、といふものは日露戰役より今日に至るまで約三十年の間の廿億——それも私にいはせると卅億以上といひたい。その上無形のもの、計算は出來ないが、まづ廿億でよろしい、そして百廿萬ばかりの日本人が滿洲の中にあります。これだけのためには完全な自衛手段を講じなければならぬ。國際聯盟ぐらゐのものが、何をいはずが彼にをいはうが、ちつともかまはぬ。夏なら蟬が鳴いてをるくらゐに聞いてをる。新聞社の方は向うから、高い電信代で打つて、あれで一面に何とか載せなければならぬから、これはまことに、お氣の毒だけれども、國民はその高い電報料に對して讀んであげるといふくらゐで、新聞社の方では、それをやらないと電信

代を惜しんでをるやうで、まことに體裁が悪いから、それでずるぶん高い電信代を拂つてをるのでせうが、われ／＼は、その電信代に對して讀まずにおくのも、申し譯がないと思つて讀んでをる。國民もそのくらゐの程度で讀んでをられてよろしい。

### 英國の態度

たゞこゝに少くとも英國の態度に不埒至極、不信義な所がある。これは大分新聞にも出てをります。私共もこれには非常に注意して見てをる。英國が果して、この不信義な状態を今後に繼續するや、過ちを知つて、悔い改めるか、どちらへ出るか、私は非常に注意して見てをる、おそろく日本の國民のうち私と同じ考へを持つてをる人が八、九割あらうと思ひます。この英國の態度だけは、よほど注意をして見ないと、これを國際聯盟の他の電信と同じやうに、新聞社が高い金を

拂はれるから、義務で讀んであげるといふ考へで居つてはいけません。なんとなれば、日本にもつとも密接なる關係を持つてをる外國は、一が支那、二がロシア、三が英國、四がアメリカ。この四ヶ國が一番日本に密接な關係がある。そのうちロシアと英國とが、日本に密接な關係を持つてをる事は、もうほとんどちらがより密接かわからぬくらゐな程度に、密接な關係をもつてをる。支那に比べると程度が薄いけれども、アメリカに比べれば、遙かに厚い程度の關係をもつてをる國です。それであるから私どもは、こんどの事件で、何が重大かといへば英國の態度といふものが非常に重大なものであると思ふ。依然かくのごとき、不信な態度を續けるものとせば、わが國民は英國に對して、決心をしなければならぬ。その決心は、どういふ決心であるかといへば、英國は今日まで國際的に信義を有してをつた國家であるが、現在の英國は不信義な國家である。かういふ事を、決心しなければならぬ。不信義な國家であれば、これから後は、どういふ事をする

やらわからぬ、かう思はなければならぬ。その場合々々に對して、これに對應するだけの、考へをしなければならぬ。今日までは國際上信義な國であると信じてをつた、時には二、三の不都合な事もあつたが、それは誤解といふ事もある、後に釋然とすればそれでよい。また事實釋然として來た。今度もあるひは誤解で釋然とするかも知れないけれども、せぬかも知れない。これは未來の問題です。たゞ今別にどうかうと、いふ事はないが將來は實に一舉一動まで注意してゐなければならぬ。國民も英國の動き方といふものは、よほど氣をつけて見てゐなければ大變な誤りが出來て來る。正解をしなければならぬ、誤解をすればソコに非常な損失を來すから、どうしても正解しなければならぬ。

### 米國の態度

アメリカの態度は、今度の事件においては終始一貫、よくわかつて、英國の態

度見たやうな不可解な所がない。ことに最近になつて明白にわかつた。國際聯盟を離れて、独自の立場でやるといふ事がわかつた。これまではアメリカは少しく外交が下手である。日本人を激せしむる事が多かつた。ためにやゝもすると、米國に對して日本人は誤解をし易かつた。この誤解をし易い事については、私の書物にも、それを繰返して書いておいた。アメリカ人は、さういふ馬鹿なものでないといふ事をいつてある、しかしながら、なか／＼日本人の頭の中へ焦げついた、對米惡感情は抜けないのでありませう。やゝもすれば、悪い誤解をし易い。これは、よほど氣をつけないといかぬ。アメリカ人の態度は、日本人が考へてゐるやうな悪いものではないと、われ／＼は信じてゐる。がしかし今後どう變つて來るか豫言は出來ないが、今日までのところで見れば、アメリカの態度は別段我々が、誤解を惹起するやうな事はしてをりません。おそらく今後も英國のやうに、疑惑を抱かしめるやうな事はあるまいと思ふ、これは將來に徴さなけ



れば何ともわかりませんけれども、英國は最近非常に疑惑を抱かせる態度を示してをる、この事件に對して、英米の態度といふものを、よほど國民は氣をつけて見なければならぬが、少しでも色眼鏡をかけて見てはいけない。極冷たい理性をもつてこれを見ないといけない。少しの感情を挟んでも間違ひが起る。日本人はどうも感情に走りたがる。これは非常に悪いことである。ことに國際間のことは極めて冷たい理性で見ないと大變です。

### 露國の態度

次はロシアである。黒龍江軍などにロシアが、援助した形跡があると新聞が傳へてをるが、それが事實であるか否かは姑らく別として、ロシアがこの場合支那を援助するといふやうな、おろかなことをやる國ではないと信じてをる。あるひは武器ぐらゐのものは、賣つたかも知れないが、これは何處の國でも商賣

であるから、金さへ出せば武器は誰でも賣るので、これをもつて必ずしも援助とはいはれない。たゞ商品の賣買といふことである。將校が入つてをるといふ事になると、これはやゝ事が重大であるけれども、これも備はれてをるのだといへば、それまでの話、これをもつて直にロシアが、日本に戦ひを挑んだものと私は考へない。今後にもさういふことはありませう。ロシアが日本に對して戦ひを挑むといふ場合には、ロシアの正規軍が東支鐵道を下りて來るか、あるひは日本人の東支鐵道沿線にをるものに對して壓迫を加へるか、國家としての行動があるまでは、ロシアが支那を援助したものと考へ得ない。個人の問題や武器等では、さう輕々と即斷するものでないと信ずる。ロシアとして希望する所は、往年自分が所有してをつた東支鐵道を最近、數年間に支那の利權回收熱から謂れなく支那に取上げられた。それが三年以前の露支國交決裂です、しかし、その後ロシアとしては甚だ面白からぬ状態で、依然東支鐵道は有名無實の資本權を

シアに残されて、實際の管理權は、支那に取られてしまつてをるやうな有様である。支那は東支鐵道を、ロシアから取上げた通りに、日本の滿鐵を取つてやらうと思つてをつた。ロシアは力が弱かつたから取られたのである。それで支那が日本に事をかまへたために、支那の力が弱つた。この機會を利用して往日の通り取戻さう、さうロシアは考へてをるものと思ふ。これがさういふやうになるか否かは、露支間のことでわれ／＼の關係しない事で、どうもわかりませんが、そのゆゑをもつてロシアが日本と戰端を開かなければならぬとは、どうしても考へられない。日本は東支鐵道に手を加へることはなかつた、今後もしやういふことはない。支那が手を加へ、支那がロシアから取上げたところで、われ／＼日本としては何等増減するところがない。一向關係のないことである。それであるから、どうもロシアが日本と事を構へるものとは考へられない。ですから二、三、さういふことの實例が今後にあつても、私はまだロシアが日本に事を構へるなど

とは考へ得ない、おそらく私の考へが至當だらうと信ずるが、それももう少し事實に徴して見なければわからない。

さういふ譯で、滿洲の問題は外國の關係するところは、ほとんどないので、いはゆる日支直接交渉に待つべきものである。しかし、こゝでわれ／＼日本國民がよく理解して置かなければならぬのは、撤兵の問題である。撤兵といふ事は、國際聯盟なども滿鐵付屬地内に引揚げよといつてをるが、よくわかつてをる人は、滿鐵付屬地といふものは、どういふものであるか、知つてをるけれども、恐らく大部分のものは滿鐵付屬地といふ事も知らない。わが國民も撤兵なるものがどういふものであるか、知つてをる人もあるし知らぬ人もある。私どもは、この撤兵なるものは、時には撤兵するも可なり時には出兵するも可なり、わが國民の生命財産および今日まで投下した所の、權益といふものが完全に保護せられてをる場合ならば、いづれのところからでも撤兵するも可なり、これが侵されたな

らば、いづれのところへ出兵しても可なり、斷じて撤兵せぬといふこともいふべからざることであると同時に、出兵は出来ぬといふことも間違つてをる。けふ撤兵して、あすまた出兵しても差支ないはずである、要は生命財産および權益の保護といふことにある。その保護なるものは自衛といふことにある。自衛保護の出来る出来ぬで、出兵撤兵といふことが別れて來るのである。この問題をもつて國際聯盟はやかましくいつてをるが、わが國民はこれは極めて小なる問題と見て差支ない。大なる問題は何であるかといへば、自衛が出来るか、出来ぬかといふことである。

### 不可解な軍部の態度

次に私は日本政府のとりどころの方針に一つ判らぬことがある。まづどうも軍部の態度が甚だ不可解なことである。それは何であるかといふと、往年のポ

ーツマス條約の主旨によつて、滿鐵沿線一キロメートルにつき十五人といふ數をもつて約一萬七千の數を平常の滿洲における鐵道保護の兵數としてある。今日もそれを依然墨守してをる。それは平常の話で、一キロメートル十五人は百人どろぼうが來ようが、千人馬賊が來ようが、一萬人來ようが、やつぱり一キロ十五人といふ馬鹿な事はない筈である。今まではまだそこまで危険もなかつたから、一萬七千が最大限度であるけれども、一萬四千でとどまつておつた、これは必要がなかつたからである。ところが必要があれば、一萬四千や一萬七千どころか、三萬五千でも五萬でも十萬でも出して差支ない。それ以上も出さなければ護れぬやうになつても生命、財産、權益は捨て、しまふといふ事は、ないはずである。一萬七千すなはち一キロメートル十五人といふのは、平常の小どろぼうの話といふので、張學良や馬占山といふ様な、大どろぼうに對していうた事柄でない、ポーツマス條約の際はだどろぼうの事をいうてをらぬ。いはゆる滿洲馬

賊の範圍でいうてをつた。張學良といふやうな、二十何萬といふ手下を持つた大泥棒がをるといふ意味でいうたのでない。それを依然墨守してをる。のみならず、ポーツマス條約の片相手ロシアがなくなつてしまつた。ソヴィエツト・ロシアが條約の通り行くか行かぬかも疑問である。通用せぬ昔の證文を見ていうてをる。甚だわからんことである。それ以上の兵數は出せないとはなぜであるか、自分の生命財産が害されてをるのに出せぬといふ理窟はない。現に、私として軍部の行動に、はなはだ嫌たらんのは、嫩江の橋梁架設の折に馬占山の兵が六千居ると云ふ事は十分關東軍司令部は知つて居る。それから橋から南北兩方に十キロメートルづゝ退くと言ふ事をやつた時に、張海鵬は退いたが馬占山の方は退りぞかなかつたと云ふ事を關東軍は知つて居る。それにかゝはらず四百そこそこの兵をやつて大損害を蒙つてあわて、援兵をやるとは何んと言ふ拔つた事をやるか。私共は關東軍司令部の處置を甚だ不滿に思ふ。日本兵は勇敢で

ある、けれども關東軍が今少し機宜なる處置を取つたらあの非常に多數の死傷者を出さずに濟んだに違ひない。一騎當千と言ふ事があるかも知れないが、無理に死地に立たせなければならぬと言ふ理由はない。

關東軍の處置甚だ悪い。自分は今日まではよいと思つて居るが此の事だけは甚だ悪い。がこれは本庄司令官を責めるのでない。本庄司令官を制肘した日本の南陸軍大臣が怪しからん、南大臣、金谷總長が怪しからん、何故本庄をして十分の手腕を振ふだけの完全な兵力を渡さなかつたか、これは南、金谷の大臣、總長が甚だ處置を誤つて居るものと信んずる。

### 道德上の( )内閣

しかしなほ私は南、金谷を責めるのではない、もう一つその後、帝國政府なる一つの團體がある。かくの如く多數の死傷者を出さしめるやうな行動をとつ

た事は、これを春秋の筆法を持つて言へば、若槻内閣は陛下の赤子を無用に〇〇せりと言はなければならぬ。若槻内閣の外國に對して軟弱な政策は陛下の赤子を多數〇〇した。支那人が殺害したのでない、若槻内閣が〇〇したのである。自分はこの信んずる。國民もこの信んずればよろしい。これは實によくない。今日までの外交は軟弱ながら正常な行動をとつて居るが、嫩江で死傷者を多數出したのは若槻内閣の〇〇〇である。これに國民が一言非難を加えて居らぬのは國民の神經が痲痺して居るからである。新聞でも責任を問ふて居らない。まことによくない。何處までも若槻内閣の責任を問ふべきである。無用な事に氣兼ねして、貴重なる人命、陛下の忠良なる兵士を多數〇〇して居る。これは決して本庄司令官の罪でもなければ南、金谷の罪でもない。全く内閣が直接に陛下の赤子を自ら手をかけて〇〇したと同じで、斷じて許すべからざる〇〇である。

これはポーツマウス條約の一キロ十五人に拘泥して居るのみならず、一萬七千人の處へ、補充の三千人ほどの増援すら出さないからである。斯くの如くして、日本人を〇し、日本兵を〇し、それで内閣は、陛下に對し奉つて申し分けが立つと思つて居るか。國民に對してすむと思つて居るか。これは罪惡中の最大罪惡である。たゞ日本の國法はこゝろ〇〇罪を以て論じないから若槻内閣は刑事被告人にならないけれども、道徳上から言ふと立派な刑事被告人で、手を下さず〇〇して〇したと同じ事になり許すべからざる行爲である。國民も今後よく氣を付けなければならぬ。ハイカラ思想に感染して戦争は罪惡であると言ふら増兵する事は、好ましくないと云ふ事は以ての他である。そゝ言ふ事を言ふ奴は矢張り内閣と同じく〇人〇唆をやつて居る、即ち惡人に組して支那の暴逆な行動を是認する事に組して居る。我々は斯くの如き惡人は地球の中から消してしまはうと考へて居る。支那兵と言ふけれども實は匪賊同様なもので、そゝ言

ふものを地球の中から消してしまふまでは、少しも手をゆるめる事は出来ない。

佛教は大慈大悲と言ふ事を言つて、蟻一匹殺してもいかぬと言ふけれども、場合によれば降魔の利劍と言ふ事もある。いくたの悪魔を斬り拂ふと言ふ劍を持つて居る。支那の兵隊の様な奴は悪魔で、これを屠るには劍を振はなければならぬ。蟻一匹殺してもいけないと言つても、悪魔に對しては何處までも利劍を振ふべきである。こゝを履き違へない様に、はつきりして置かんと心の据え方がわからぬ事になるから、これを私は國民によく言つて置く、おそらく今後にもこう言ふ馬鹿な事をやるかも知れないから、特に注意して置く、現に馬占山は一萬有餘の兵をチチハルの附近に集結して居ると言ふ事を、昨今の新聞が傳へて居る。これが南に下つて來た時に、又我軍人は無益な生命を捨てなければならぬか否か。戦さであるから死ぬのは惜まぬけれども、かくの如き間違ふた内閣の方針によつて、死ななければならぬのは、陛下の忠良な軍人の貴い生

命を無益に捨てる事になるので、私は非常に憂慮して居る。

馬占山の兵が三萬來ようが五萬來ようが、それは我陸軍は充分に、之れに勝つものと信じて居るけれど、無闇と生命を捨てさせることは相すまぬ。國民は餘程今の内閣をせめて援兵を殖やし、彼れを威壓する丈けの方法を執らなければならぬ。「武」と云ふ文字はどう云ふ字であるかと云へば、之れは「戈」を「止」めると書いてある。人を殺し、自分が死ぬのは、「武」ではない。劍を拔ずして抜いたと同じ値打ちがある時に初めて武徳といふ徳も出て來る。孫子にも「上兵は謀を伐つ」、謀即ち計畫の時に抑へつけてしもふと書いてある。それで私共は數個師團を動員して、滿洲にもつて行つて之れを威壓して、一兵だも殺さず、一發の彈丸を打たずして、問題を解決するのが上策だと信じて居る位で、少ない兵で屢々あつちで戦ひ、こつちで戦へば、貴重な忠勇な將士の生命を失はなければならぬと云ふことは拙の拙なるもので、一キロ十五人を固守する必要

はない。大軍を送つて速に威壓して事終らば速に引揚げるが一番上策である。さうすれば無益に生命を捨てる事はない。ことに我國民たる朝鮮人は、二千數百名の殺害を見て居る。これ等はみな兵力が少かつた爲めである。ポーツマウス條約に拘泥して、わづか一萬四千位な少兵を送つて彼をして、驕慢心を抱かした、その結果無辜の我が國民が二千五百人も殺害せられたといふ事になる。これ皆若槻内閣の罪惡である。今日では私は若槻内閣は罪惡を犯かして居るものと信じて居る。

### 國民の覺悟

それで國民はもう外國を顧慮する所もなければ何も無い。我々は正義の爲めにどこまでも今度は滿蒙の問題を解決しなければならぬ。これだけの事さへ考へて居れば、後の事は何にも考へなくともよろしい。内閣も最初から今日まで

終始一貫して方針を變へて居らない。これは私も今の内閣の處置が頗るよいと思ふけれ共、今まで外國に氣兼ねて貴重な生命を、たゞで捨てさせた事だけは殺人教唆罪の様な事をやつたのであるから承知がならない。

次に我が國民に、もう一つ告げなければならぬことがある。我が國民は誠に同情心に富み、慈善心に富んで居る國民であるにかゝはらず、今回の事變に關しては慰問の金品が甚だ少ない。これは新聞社に於ても慰問品を取次でをられるから口は開かれて居るのであるが出すものが甚だ少ない。そも／＼本年の水害の如きは、よほど多額の慰問品が行つて居る。支那はあれを受けなかつたが、受ける受けぬは向ふの勝手として、受けなかつたその後は、どうしてしまつたか、それ／＼みな處分をしたはずだが、處分をしたとしたら、どういふ形になつたか知らぬが、寄附者の手に歸つて來たのがある、それは盡く出して然るべきである。のみならず更に進んで出すべきものである。遊ぶことになると平氣

で金を出す、遊ぶ事には徹底するが慰問は更にしない。さういふやうな不埒な了見をして居るものだから、その國民が作り上げた代議士、その代議士によつてまた出来て居る政府がこんどは殺人教唆みたいな事を平氣でやる。その元を言へば國民に同情心、慈善心が缺乏して居るから結局政府が兵隊を見殺しにするのである。しかし國民はそれを傍觀して居ると云ふ事は國民の同情心、慈善心が大へん薄くなつて居るからである。要らぬ遊びに、氣狂のやうになるといふことは、不都合なことである。私は遊ぶことは悪いとは言はぬ、遊ぶのもよろしい、大國の襟度としてはあればかりのことに、滿洲事變ぐらゐな小さいことに緊張し過ぎて居るのは甚だ面目がないわけで、大國の度量襟度を示す勇氣もよろしい。しかし、それと同情とは別に見なければならぬ。私共平常さうあはてた暮し方をして居らない。しかし同情の點だけは、自分は微力ながら今日まで盡して居る。のみならず今後もつくして行かうと思ふ。これは國民は、よ

ほど考へ直して、これから慰問の方法を講じてもらはなければならぬ。

その上、もう一つ言ふことがある。滿洲はまだそれでも幾らか遣つて居る。白川大將の談によると、慰問品は相當來て居るが、かたまつて同じ品物ばかりが多い、それでは甚だ有難迷惑になるやうなことと思ふから、よく其の邊は取捨して、もらいたいといふことをいつて居られるが、これは御尤もなわけで、商賣をするのでないから、一つのを澤山もらつても、まことに迷惑なことであらうから、なんとか其の地方々々の市役所とか新聞社、公共團體か何か、適當な按排に寄附者に、こゝろゆゑものが缺乏して居るから、慰問品はこゝろ云ふ様にしてくれと注意してやるか、とにかく、さう言ふ事によつて、かたよらんやうにして、やらなければならぬ。

### 長江を忘れるな



まだそれでも、滿洲はすくないながら慰問品はある。長江筋に至つては何んにもない。慰問品をやらうと云つた者もない。長江筋を引揚げて來た人はまことに氣の毒である。私はきわめて、些かであつたけれども慰問の志を向ふへ送つた、さうして、誰か日本人で斯ふ言ふ事をやつた人があるかと云ふ事を上海で調べたが、まことにどうも情ない事で私一人だけ、第二人もなければ、第三人もない。以ての外の不心得である。自分は自慢をするのでない。決して自慢にならぬ事で、もつとよい事をしたら私も自慢をするけれども、鼻糞ほどのもので長江筋の在留邦人を、慰問した位では大谷光瑞、徵力ながら、まだ自慢は致しませぬ。自慢じやない、これはあたりまいの事をしたのである。外の人があたりまいの事をせぬのは不埒である。長江に水がついて、そしてそれを慰問したものが今度の國家の政策の犠牲となつて、産を破つて一文なしになつて、奥地から歸つて來、その日の糊口に窮してをるものを、知らぬ顔をしてをると云ふ事は、何

といふ事であるか、それでも人間の様な顔をして、日本の町の中を歩いてをる面の皮の厚いには感心してをる。これは盲、蛇におぢずで、知らぬときには何うも致し方がない。我々は蛇が居れば恐いから逃げるけれども、盲は蛇が何處にをるか知らぬからどん／＼歩いていつて踏むと言ふのと同じで、長江筋がどんなになつてをるか、判らぬ以上は致し方がない。全體新聞も悪い、新聞に長江筋の報道が極めて少い、それだから自然長江筋が何うなつてをるのか書いてなければわからぬ。私共は長江筋が、何う云ふ状態であるかと言ふ事をよく知つてをる。上海の新聞も毎日見てをる。日本の新聞だけでなく支那の新聞も取つて讀んで居る。それだから長江が今どう言ふ状態にあるかと言ふ事は、よく知つてをるが、日本の新聞は長江筋の状況なんか餘り載せない。偶に載せても細い活字で暗い電燈の光では見へない。そんな處は讀まないで、大きな活字や野球ばかりを讀む。だから長江なんか、どんなになつてをるのか、さう言ふ事

はわからぬ。わからぬから同情心が出て來ない。

私はもうすこし大きな字で書いて知らせなければならぬ。もう少し長江の状況の報道をよく掲げてもらいたい。そして日本國民の同情心、慈善心を常に、長江に向けてやらなければならぬ。長江に居る處の日本人は罰を喰ふのは當然だと云ふ理由はどうしてもない。今日は刑務所の罪人ですら相當の恩恵を加へるのに、あたりまゝの國民が日本の政策のために、一身を犠牲にして居るのに、知らん顔をして居るのは不都合千萬である。とにかく、長江筋の在留邦人の慰問と言ふ事は、完全を期して頂かんと、もう今日では長江筋の日本人は怨嗟の聲で満ちてをる。私の知つてをる處でも甚しきに至れば、日本の政府を呪咀し國民を呪咀する様になつてをる。これはよほど注意をしなければならぬ事で、これを捨て置いたら、何う言ふ不祥事が出て來るか、私は大變憂慮する。國際聯盟の事は少しも、憂慮しないが長江の日本人を捨て、置く事は憂慮する。

長江筋に對する帝國政府の政策に就ては、非常にしば／＼政府に對して言ふけれども更に聞かない。けれども、これは本紙上に於てさう言ふ事を言ふ必要はありませんから、私は一言も言いませんが、紙上で言ふ可き事は國民が、これに對して、強く同情心を出してもらはなければならぬ。これだけの事である。

### 眞の支那を知れ

それから我が國民が支那を見るのに、これは少しく今日までに見方が違つて居る。どう違つて居るかといふと、如何にも遠方の様に思ふ。これは大變間違である。全體、海といふものは陸と違つてその間はなんにも無いもので、こつちの岸から向ふの岸まで、幅が少し廣いといふ位な事で、大平洋位になると幅が四千マイルもあつて、大變廣いが支那東海位の幅は極めて狭いものである。であるからもう少し支那は近い處であると思はねばよくない。遠い處と思ふから何事

もろそかになり、調査もろそかになり、研究もろそかになり勝だから、もう少し近い處と思はなければならぬ。現に近頃上海に行く早い船は長崎を出て二六時間で上海に到着して居る。そうすれば長崎から東京に行くのと大差ないけれ共、長崎から東京に行くのと、長崎から上海に行くのでは、長崎の人はよく知つて居るけれ共、外の人は長崎から東京に行く方が近い様に思ふ。これでは支那の事件がはつきりわからぬ様になり勝である。いはんや滿洲の如きは日本の領土と境を接して居る。近いも遠いも問題でない。日本の國と同じ様になつて居る。それでもまだ滿洲の權益といつても、何が權益だかよくわかつて居ない。もう少し支那研究と言ふことが、完全に行はれないと不覺を取るのは矢張り我が國民であつて、國際聯盟が取るのでもなければ支那がとるのでもない。日本自身がとらなければならぬ。だから支那の研究と言ふことは、非常に重大と思ふのである。

この事件が起つて以來、各地で講演會が開かれて居る。誠に此れは有難い事で國民が心を一にし國論を統一すると言ふ事に有力なる要素になつて居るのは、大變結構な事である。けれ共、今少しく實際の經濟上の價值と言ふものを、くわしく説明をしてやつて頂き度ひし、且つ又歴史の上からも、説明をして頂き度ひ。あえて滿蒙とは申さぬ。支那全體にわたつて、それをやつて頂き度ひ。將來の處置、今後の覺悟、それも結構であるが、其の基礎になるものを今少しく知らしてやつて頂かんと何が故、そうゆう決心でなければならぬか、と言ふことがわからぬ。たゞこうせねばならぬでは、少しく頼りない、又頼りないのは他日決心が壊れる基になる。決心の壊れぬ様にするには、確乎不拔な處がなければならぬ。それには今少しく歴史、經濟狀況を確り言ふて頂きたい。それは又何時まで續いて終ると言ふことはない。條約の如きも今日までの條約を全部知つて居る人は、おそらく無いと思ふ。自分の小冊子にも各種の條約をつけて置いた

のは、私の議論を読んで下さるのも有難いが、議論と共にこういふ事情であつたかといふことを、わからすために自分の理論の三倍程の附録を付けてあるのは其爲である。附録を読むで充分知つて頂かなければ、國民の覺悟が出て來ない。

直接交渉と云ふことも早晩行はれるであらう。撤兵も早晩行はれるであらう。然し滿洲の様な馬賊の多い處、土匪の多い處は、何時また出兵しなければならぬかわからぬ。先に述べた様に出兵も撤兵もあつたものでない。こういふ處は出たり入つたりしなければならぬ。これで打切りと言ふことも出來なければ、國民もそれで打切りと思ふことも了見違ひである。日本の國の中でも、法律があつても、どろぼうは出るので、これでどろぼうは打切りと云ふことはない。どろぼうが出れば捕へなければならぬと同様に、滿洲の事はこれで打切りと言ふことはない。いくら直接交渉をしてもそれを守り得ず、何邊條約をこしらへて見ても、一向守つたこともない。金を貸してやつたら利息を拂つた事も

なければ返した事もない。そういふものをつかまへて、紙の上に字を書いたら其れで終りと、考へて居つては、とんだ間違ひでそれでは國際聯盟の委員と同じ誹りを受けなければならぬ。

### 今 後 の 支 那

それから、長江筋のごときは恐らく滿洲よりもう一つ悪くなりませう。それを非常に自分は憂慮してをります。共産黨が非常に多くなつてをります、のみならず水害のため衣食を失ふたものが非常に殖へてをる。これに就ては色々説があつて、はつきり判りませんけれども、まあ四五百萬の人間は衣食に窮してをるはずで、或ひは一千萬ともいひますが、それが何になるやら、共産黨なんと言つてゐますが、これも何やら判らぬ、つまり、どろぼうの一つです、人のものでも取らなければ己が食ふわけにゆかぬのだから、餓死するか、どろぼうにな

るのか二つうちの二つになりませう。まづそのくらい的事で結局は、第二の満洲の様な騒動の多い處になるだらうと思ひます。ことに水害の義捐金と言ふものが、相當あつまりかゝつたやつを、こんどの事件で南京政府がその仕事をやめてしまつて、だれも金を出さず迷惑なのは水害の罹災民で、そのために誰も救助はしてくれず勢ひ盗人になるか、餓死するか、どちらかを選ばなければならぬ事になり、腕ツ節の弱い奴は餓死して自然淘汰せられて來てをるのだらうと思ひます。多分こゝ三四ヶ月の後からは、非常に悪くなつてくるだらうと思ひます。

まあ、さういふやうな風で支那といふ國は、あの國全體がこれから禍亂の中に入る、あえて滿洲の問題のみではない、全土が禍亂の中に入る。こう考へて居つたら間違でない。南京政府と言はうが、何政府と言ひませうが、そんなものは誰がつくるかしらんが、五人十人の人間が集つて名を附けたゞけで、何政府が出來た處が、平和な天地になり善政が布れて國民が皆喜ぶやうな事は、まあ一寸我

々の見た處では三十年や四十年には來ぬと思ひます。その隣國にをる我國民は、これに對して何うしたらよいか、と言ふことになればその場合々に應じて策を立てなければならぬ。すなはち、今日に於ては我々の滿蒙に於ける權益を何處までも擁護しなければならぬ。および楊子江その他に於ては國民の生命財産は自衛しなければならぬ、こゝ言ふ事はイツまで經つても變らぬが、その他はその場合々々でやつて行かなければ、あれがイツ治まると考へたら間違である。私共に人がよく聞かれる「支那は何うなりませう」「めちやくゝに亂れませう」「困りますなあ」「困つても向ふのことですから」「治まらんでせうか」「いづれは治まりませうが、お氣の毒ながら御壽命の中には大ていむづかしいでせう」と答へます。私にさう云ふ事を聞く人は大てい三十四五歳以上で若い人はありませんから「御壽命の中にはむづかしいでせう」といつておけば確かです、邊澤さんくらゐ長生きしても、ちよつと支那が平和に治まるのは見られなかつ

た。三百年位生きたらさういふ時代がくるかも知らぬが、近いうちには見込がないと考いないと非常な間違であります。

### 正義の前に敵なし

茲で結論を申します。外國が干渉しようがどうしようが恐れるに足らぬ。また支那といふものを自分の相手として考へたら、料見が違ふ、日本は日本のとるべき道だけをとつて、誰がかういはずが、どういはずが眞直に進む、これが私の結論であります。たいわがとるべき道は、どこまでも正義で、貪慾を起してはいかぬ不正義なことをしてはいかぬ、正義の前には何等恐れることはない。眞直に行くべきである。わが國民の覺悟はすなはち、わが政府に表はれる。私はしばしば政府を非難したがそれは政府を非難したのではない、わが國民を非難してをるのである。政府が不料見、軟弱になつたら、政府だけ取替へてしまへばい

# 欠

# 欠

## 滿蒙問題に就き米國民に告ぐ（英文和譯）

貴族院議員 大 谷 尊 由

私は三年前、アメリカを訪問した。至る所で受けた懇切なる歡待は、今尙ほ私の最も愉快なる回想の一である。

私はアメリカ國民を知るに及んで、その偉大さを感じた。大襟度の國民として敬服してゐるものである。それ故に、我が國民にとつて、死活の問題であるこの滿蒙問題に就て、私見を披瀝して、アメリカ國民の了解を求めんとするのである

### 一、ロシアの極東赤化策

我々日本國民は、目下世界各國民と等しく、非常重大なる難局に立ち、財政

滿蒙問題に就き米國民に告ぐ

經濟界の颱風に暴露されてをる。吾等の心は深い不安と懷疑の影に曇つてゐるのであるが、之に搗て加へて吾々は今日支那、殊に滿蒙に於て重大なる難局に直面してゐる。滿蒙は日本にとつては生命線である。滿蒙が一度、無秩序の狀態に陥る時は、ソヴェット、ロシヤの跳梁にまかせなければならぬ。支那、否實は全東部亞細亞を通じての革命と社會的動搖こそ、ソヴェット、ロシヤの政策の目標として變らざるものである、而して日本も此の計畫の中に包含されてゐる。

二十餘年前ロシヤは、支那と密謀して、日本の存立を危殆ならしめた。ロシヤは、ソヴェット政治の下に種々な急進的變化を見たが、而かも極東政策に關する限りは聊かの變化も見ない。ザー統治の時代より、極東に不凍港を獲得せんとする、數百年の方針は聊かの改訂も見ない。舊政體の當時と比較し、唯一つ異つて居る事は、即ち現在は過去に比し倍加せる勢を以て舊企圖の遂行に邁

進して居ると云ふこと丈である。シベリヤ鐵道の一地點、ノホシピリスクよりタシユケントに至る鐵道は完成を告げた。タシユケントは鐵道により一方モスクワに通じ、他方黒海沿岸、クラスノホドスクに聯絡して居る。

此處を起點として、一面印度に出で、他面支那領トルキスタンに進む事は、易々たるものである。殊に支那に向ふ通路は、支那の心臟を貫き、遂には朝鮮及日本々土と指呼の間にある黃海沿岸地點に達するのである。

外蒙古は、疾く既にロシヤ領土の一部となつて居る。支那本土の眞中即ち江西福建二省に亘り、ソヴェット政府は確立され、モスクワよりの支配を受けてゐる。蔣介石の如き、彼の兵力を以てすら未だ之を打倒し得ない。將來と雖も到底成功の望みない事は、何人よりも彼れ自ら熟知してゐるであらう。

滿洲の直接隣接地帯である東部内蒙古に於てすら、ソビエット、ロシヤの魔手が動いてる證左は至る處に認められる。



支那は排日のみでない。排外的である。ソヴェット、ロシアを除く全世界の國民に對して敵意を抱くものである。如何にも支那首領中には、時にロシア勢力の撃滅を口にするものがあるが、由來大言壯語は彼等の常習である。何れにしても、ロシアに對しては全然無力である。

支那に就て最も悲觀すべき一事は、復讐の女神に呪はれてゐることである。

此の顯著な國民的感情は、外貨排斥となり、排外思想涵養となつて顯はれ、全世界人口の約四分の一を占むる五億の國民を擧げて、若き子女の頭に復讐的思想を注入してゐる。この若き國民は聽て日本及世界各國を敵として立ち、憎悪と復讐の念に燃ゆる、數億の巨軍として現はれるものであらう。

日本は從來、極東の平和と秩序を維持する事を、唯一の信條として何等淪る所はない。この事實は公平なる觀察者には判然してをる筈である。

既に云ふ如く、日本は今日極東に於て非常な難局に直面してゐる。遂には國

運を賭して戦はねばならぬであらう。

極東に於ける平和の確保は、恒に我が方針の基調であり、過去半世紀に亘つて忠實に之が貫徹に全力を傾倒して來つた。而かも今や平和は攪亂されんとしてゐる。この極東の歴史上、最も重大なる危機の襲來せんとする秋に當つて、我が國の方針は、左の二點に關する考慮に依つて決定されるだらう。

第一、支那をソヴェット、ロシアの蹂躪に放任して置く事は正しきや否や。支那が殺戮と無秩序の災厄に惱めるを、唯だ拱手傍觀すべきや否や。

第二、支那現在の如く、四億の人心が日本のみならず、全世界に對し熾烈なる憎悪と、敵愾の念に毒される状態を默許すべきや否や。

米國々民は、この戦慄すべき妖怪を目の當り見て、尙ほ平然たり得るであらうか。右の如き絶大惨憺なる問題に逢着せる日本は、米國民の道義的支援を期待す。私の之の米國民に望むは、果して失當であらうか。

## 二、米國の中南米と日本の對滿關係

滿蒙問題に關しては、比較を以て話した方がよくわからう。北米合衆國が、カリビヤン海及パナマの支配權を放抛した状態を想像されたい。パナマ運河の支配權を、他の國民に譲つた場合の米國！又ジブラルタル、マルタ島、スエズ運河、エジプトを失つた大英帝國は果してどうなるであらうか？現在の支那の方針通りに、萬一日本が滿蒙から驅逐された場合は、まさに之と同じ情勢、否それよりも、もつと甚だしい情態に陥るのである。而かも滿蒙に於ける日本の關係は單に軍事上のみではない。

最近、三名の米國官憲が滿蒙に於ける實情を調査報告すべく、米國政府より命令を受けたとの報道があるが、私は滿洲にある我が文武官憲は固より、彼等に總ゆる便宜を與へること、信ずる。日本は滿洲に於て世界の目から隠さねば

ならぬ何ものをも持つてない。今回の米國政府の行爲は、其の目的及動機に於て少しも他意あるまい。我が國民の有識階級の間には、之に對し何等の誤解又は不安の念を抱くものはあるまい。

然し何れの國民と雖も、全部が冷靜なる爲政者、外交家又は有識階級からのみ成り立つてはゐない。米國然り。日本亦然り。實際政治に於ては、一般大衆の感想の動き方、彼等の云爲と感情に多大の考慮を拂はなければならぬ。政治家が大衆に對して、正しき判断と誤らざる評價を怠つた爲めに、幾多不幸なる誤解が國際間に生じた事實を見よ。今回アメリカ政府の取つた軽い一行動が果して日本の大衆により、正しく觀察されるであらうか。之は徒らにアメリカが滿蒙問題に、不當にも指を染めんとする者であると解さるゝ危険はあるまいか。

### 三、米國は滿蒙の爲め一人の生命を 犠牲に供したか

日本人は云はん。日本は二十餘年前、十萬の生靈を犠牲にし、二十億の國帑を費しそれが爲め現に苛重の税金をも負擔させられてゐるが——これは一體何の爲めか？ ロシヤより滿蒙を奪還し、之を支那に還附したが爲めであるのだ米國は滿蒙の爲めに一人の生命を犠牲にした事があるか。一仙の金を費やした事があるか、又滿蒙を開發し、滿蒙の今日を致す上に於て、日本の十分の一、否二十分の一すらの貢獻をした事があるか。抑も米國は滿蒙に何程の利害關係があるか。

更らに日本人は云はん。滿蒙の日本に於ける關係は恰かもカリビアン海及バナマの米國に於ける關係と異なる。滿蒙が米國にとつて日本のそれと恰かも同様の關係があるのか。萬一米國がニカラグラ、ハイチ、バナマ等に出兵した時に、日本政府が現状に於ける實情の調査報告の爲めに、我が官憲を派遣したりと假定せよ、其の結果は如何であつたらうか。斯かる疑問は、我が國の大衆の念頭には、最も浮び易いものであらねばならぬ。

昔し、日本の一商事會社が、墨西哥、マグタリーナ灣に面する土地を購入したとの虚構の説が、流布された事があつた。假りに事實であつたとしても、普通の一商取引に過ぎない。然るに米國の上院議員の神經は極度に興奮した。上下兩院議員等の或もの、興奮状態は風説の荒唐無稽と、正に好一對であつた。今此の事件に言及する譯は、國民の感情と云ふものが、如何に無意味な原因から刺戟されるものであるかと云ふ事を示さん爲である。

他の國民の感情を、不必要に刺戟するが如き、凡ゆる原因は、勗めて之を回避し除去すべきである。と云ふ私の意味は決してアメリカ國民に誤解されない

と確信する。私はアメリカ國民性を知るが故に、而して彼等の素直な心を知り、襟度の濶達を深く信するが故に、遠慮なく所信を述べる次第である。

支那は今日混沌たる状態にあり、而して復讐の女神の兩手にしつかりと握られてをる。全人類にとつての戦慄すべき凶事を、將來に約束づけられてをる。今後十年、二十年を出でずして世界人類は、現在の支那に於ける、怖るべき復讐的、排外教育の齎らす結果に直面するであらう。それは殆んど不可避の事であると想はれる。

ソヴェット、ロシヤは支那、否、全東部亞細亞に對し、虎視眈々である。東部亞細亞の天空を覆ふ、此の寒心すべき黒雲の下に、日本だけが唯一の希望の光、唯一の安定的要素として、獨り毅然立つて居るのである。

アメリカ其の他世界何れの國民の同情も、また精神的支援もなくして、若し日本が倒れた場合は、どうなるであらうか。東亞、否、恐らくは全亞細亞は、

遂に赤色に彩られるであらう。これが果して世界の安定を期し、人類の福祉を増進する所以であらうか。

近世日本の建設時代、困苦試練の五十年を通じて、我が日本國民に對し、溢らざる信頼を繋いだ如く、今も亦日本を信頼せよ。

アメリカ國民よ。極東の時局紛糾を來す虞ある一切の云爲を慎めよ。現下日本が直面する時局は、既に混亂錯綜を極め、非常にデリケートである。更に外部より、この上、紛糾の要素を注入することは避けて貰ひたい。日本は今日、有史以來の難局に當つてゐる。全勢力を傾倒して、自國領土の安全のみならず、全東部亞細亞の安全と平和の維持に當つてゐるのである。滿蒙は極東の壊滅又は安全を決する鍵である。今や日本は平和と秩序の爲めに闘ひつゝあるのである日本をして、無秩序と混亂とに對して自由に無拘束に戦はしめよ。

#### 四、米國よ日本に信頼せよ

私は再び繰り返す。日本に信頼せよと。日本が六十年前、世界列強に伍して  
以來の歴史は、日本國民にとつて立派な信任狀ではないか。日本は嘗て信義を  
破つた事はない。言質は常に重んじて來た。

私は、アメリカ國民の常識と、冷靜にして賢明なる判斷に訴へる。太平洋文  
明建設の偉業は、主として米國と日本の雙肩にかゝる。日米關係の赴くところ  
に従つて、太平洋時代の明日は、晴れもすれば曇りもするであらう。

我等日米兩國民は、特に現下の如き場合、互に相戒め相互の友誼的關係を傷  
くるが如き、虞のある輕舉は一切避けなければならぬ。これが世界人類に對  
する兩國民の義務である。

宗教に身を捧げ、人類の精神的向上を期すべき天職に従事する私は、偶々米

國々民を能く知るが故に、此の非常重大なる危機に際して、太平洋彼岸の諸君  
に呼びかけるのである。正しき聲は必らず諸君の心に感鳴の反響を呼び起すで  
あらう事を信じて疑はない。(完)



中村吉藏著

第五版 豫言者日蓮

四六版特製箱入  
ポイント組三百餘頁  
定價一圓五十錢  
送料一圓二十錢

豫言者は何時の時代にもいれられないものだ。併し乍ら皮肉にも歴史は彼等の豫言を實證し居るではないか。釋尊に於て然り、キリストに於て然り、法然、親鸞、道元、日蓮みな然らざる者はない。とまれ。宗教は今尙社會生活の推進機である。本書は宗教と藝術の神秘を琴る殿堂である。

文學博士 富士川 游著

最新刊 眞實の宗教

菊判布製總クロース  
美裝本一八〇頁  
定價一圓二十錢  
送料一圓二十錢

世に宗教の数は多い。だが佛敎程廣汎にして深奥な宗教は他にない、法門の數實に八萬四千と稱せられる。果して併らば其の中で何が如何なる部門が眞實の法門であるか、また如何なる故に夫れが眞實であるか、之れを審にし、難解の佛敎を平易に何人にも解り易く説いたのが此の本の特色である。著者の把握せる宗教、その人格は世既に定評あり、乞ふ本書を手にして眞實の法門を叩かれよ。

宇野圓空編

最新刊 反宗教運動の批判

四六版二百七十頁  
定價一圓六錢  
送料一圓六錢

滔々たる唯物主義の思潮は、あらゆる文化の根底をゆるがし震駭せしめて居る。今や人類五千年の歴史の基礎をなして居る宗教の眞正面から爆弾を投げつけて來た。果して爆發するか、不發に終る乎、乞ふ本書を讀め。

終

(定價三十錢)